

小平市介護保険運営協議会

資料 2-1

令和 5 年 7 月 1 3 日

小平市地域包括ケア推進計画

(小平市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画)
(案)

(令和6(2024)年度～8(2026)年度)

令和6(2024)年3月

小 平 市

目 次

第1章 計画策定にあたって.....	1
1 計画策定の背景と目的.....	2
2 計画の位置づけ.....	4
3 計画の期間.....	5
第2章 市の現状と課題.....	7
1 推計人口.....	8
2 日常生活圏域別の現状.....	16
3 アンケート調査結果に見る高齢者の現状.....	25
4 前期計画における評価と課題.....	47
第3章 計画の基本的な考え方.....	55
1 計画の基本理念.....	56
2 基本目標.....	56
3 施策の体系.....	57
4 日常生活圏域の設定.....	58
第4章 施策の取組.....	
1 地域づくり・日常生活支援.....	
2 介護予防・健康づくりの推進.....	
3 見守り体制の充実.....	
4 認知症施策の推進.....	
5 在宅医療と介護の連携の推進.....	
6 社会参加の促進.....	
7 権利擁護の充実.....	
8 介護サービスの充実と給付の適正化.....	
9 安心できる住まいの確保.....	
第5章 介護保険事業の見込量と介護保険料.....	
1 介護保険事業の見込量推計と保険料設定の流れ.....	
2 介護保険事業の見込量推計.....	
3 介護保険料.....	
第6章 計画の推進体制.....	
1 計画の進行管理.....	
2 関係機関等との連携.....	

3	国・東京都への要請.....
---	----------------

資料編.....

1	小平市介護保険運営協議会設置要綱.....
2	小平市介護保険運営協議会委員名簿.....
3	小平市介護保険運営協議会の検討経過.....
4	小平市地域包括ケア推進計画策定調整会議設置要綱.....
5	小平市地域包括ケア推進計画策定調整会議委員名簿.....
6	ワーキングチームメンバー.....
7	小平市地域包括ケア推進計画策定調整会議の検討経過.....
8	市民意見公募（パブリックコメント）.....
9	用語解説.....

第 1 章

計画策定にあたって

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の背景と目的

(1)介護保険制度を取り巻く状況

介護保険制度は、平成12(2000)年の制度創設から23年が経過し、高齢化の進行とともに65歳以上の第1号被保険者数は約1.7倍に増加する中で、サービス利用者数は約3.5倍に増加するなど、高齢者の介護になくてはならないものとして、社会に定着し、発展してきました。

総務省統計局によると、日本の総人口に占める65歳以上の高齢者の割合(高齢化率)は、令和5(2023)年4月1日現在、29.1%と3割に迫り、高齢化が進展しています。

これまで、団塊の世代が75歳以上となる令和7(2025)年を目途に、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう「医療・介護・介護予防・住まい・生活支援」が包括的に確保される地域包括ケアシステムの構築を目指し、介護保険制度の改正が進められてきました。

今後も高齢者人口は増加し、中でも85歳以上の人口の急増に伴い、要介護認定者数や介護給付費が大幅に増加することが見込まれています。また、団塊ジュニア世代が65歳以上となり、高齢者人口がピークを迎える令和22(2040)年頃には、一人暮らし高齢者や認知症高齢者に加え、医療・介護双方のニーズを有する高齢者など様々なニーズのある要介護高齢者が増加する一方で、生産年齢人口は急速に減少が見込まれており、人口構成の変化といった厳しい局面に直面することが予想されています。

今後の更なる高齢化の進行や人口減少といった様々な社会環境の変化も見据えながら、介護保険制度の持続可能性の確保に向けた早急な対応が求められています。

(2)計画策定の目的

小平市においては、令和5(2023)年4月1日現在、人口約19万7千人に対し、高齢者人口が約4万6千人、高齢化率は23.6%となっています。市では、高齢化が進展する中、平成27(2015)年度の高齢者保健福祉計画及び第6期介護保険事業計画から、「小平市地域包括ケア推進計画」と総称し、「住み慣れた小平で、いきいきと笑顔で暮らせる地域社会をめざして」を基本理念に、団塊の世代が75歳以上となる令和7(2025)年を見据え、「医療・介護・介護予防・住まい・生活支援」が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に向けた各種取組を進めてきました。

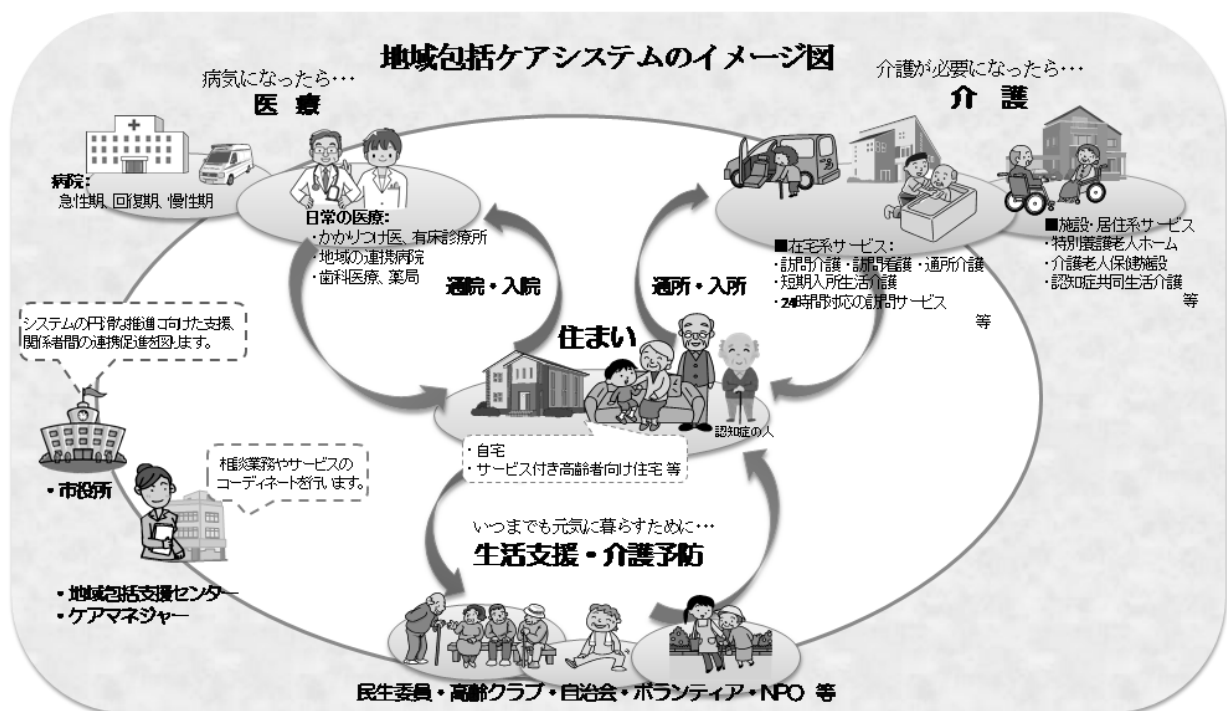
ここで、令和7(2025)年を迎えることとなります。市の推計では、今後も高齢化がより進展し、令和22(2040)年には高齢者人口は約5万6千人、高齢化率は30.2%まで上昇していくことが見込まれています。

また、高齢者人口の増加に伴う介護サービス需要の急激な増加が見込まれる一方、総人口は

令和7(2025)年をピークに減少し始めるとともに、生産年齢人口の減少が進むため、介護サービス基盤の整備や介護サービスの担い手不足など高齢者を取り巻く環境が大きく変化することが予測されます。

こうした社会環境の変化の中においても、高齢者が必要なサービスを受けられ、できる限り住み慣れた地域で安心して生活できるよう、引き続き、地域包括ケアシステムの更なる推進を図りつつ、地域共生社会への実現を目指すことが求められています。

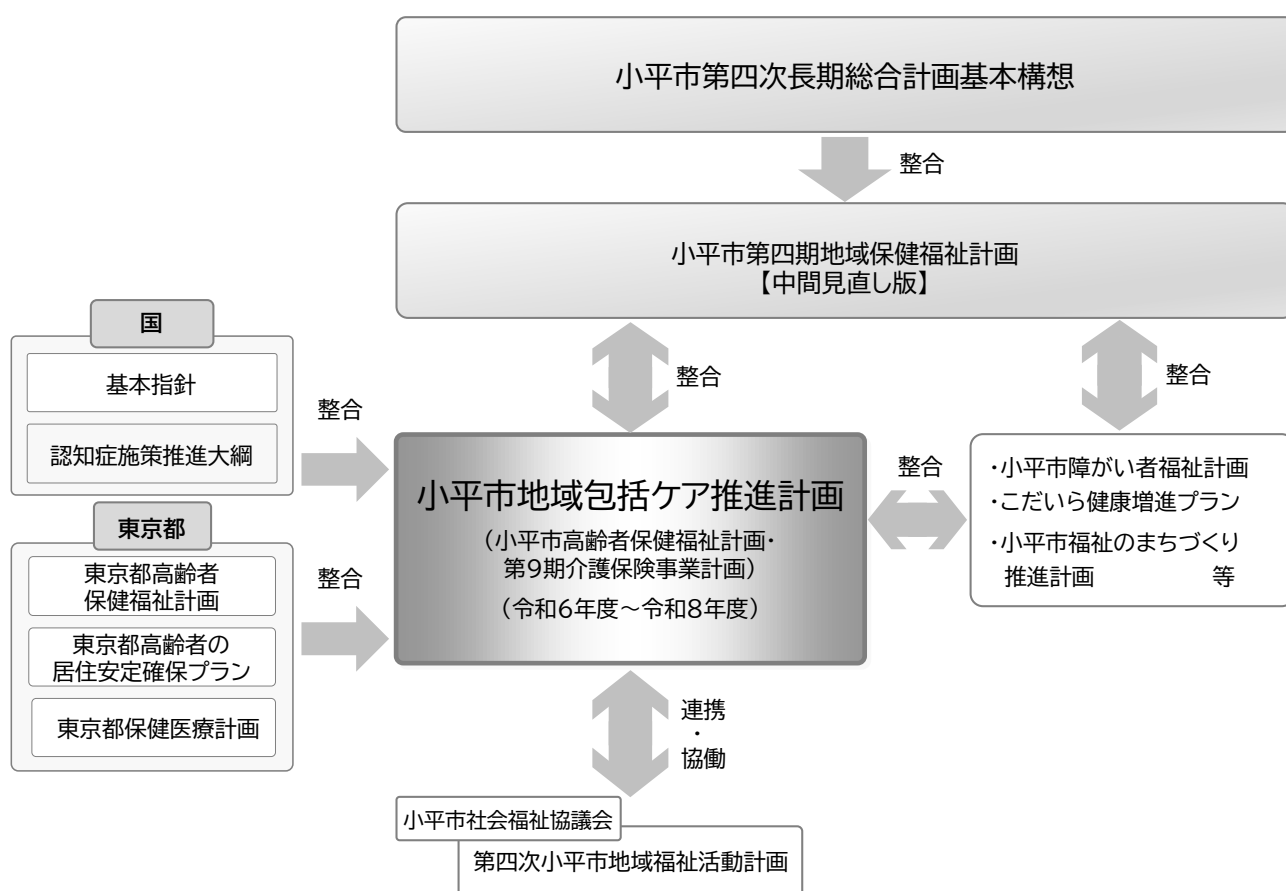
これまでの市の高齢者施策を検証するとともに、今後の中長期的な人口動態や介護サービス需要の見込みを踏まえ、高齢者保健福祉及び介護保険事業の円滑な実施や推進を図るために、令和6(2024)年度からの「小平市地域包括ケア推進計画」を策定します。



2 計画の位置づけ

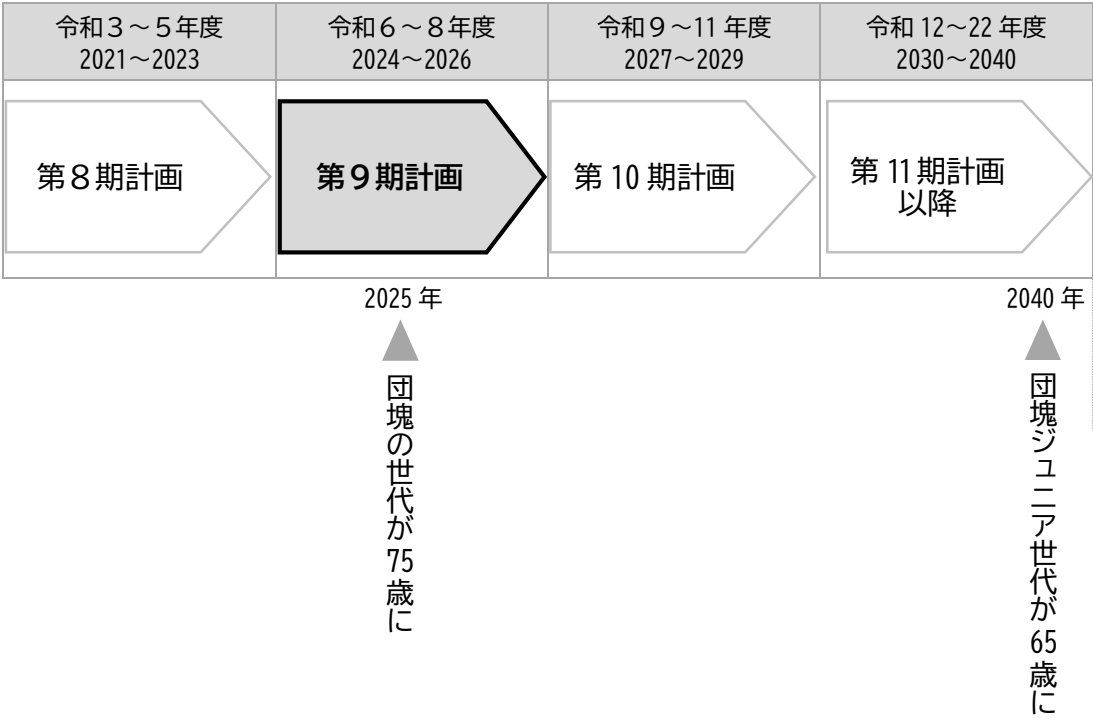
本計画は、老人福祉法第20条の8に規定する高齢者保健福祉計画及び介護保険法第117条に規定する介護保険事業計画を一体として策定するものであり、総称を「小平市地域包括ケア推進計画」としています。

また、本計画は、「小平市第四次長期総合計画基本構想」の部門別計画である「小平市地域保健福祉計画」や、「小平市障がい者福祉計画」、「こだいら健康増進プラン」等の関連計画及び介護保険法に基づく国の指針や東京都高齢者保健福祉計画等との整合性を図ります。



3 計画の期間

本計画の対象期間は、令和6(2024)年度から令和8(2026)年度までの3年間とします。



第2章

市の現状と課題

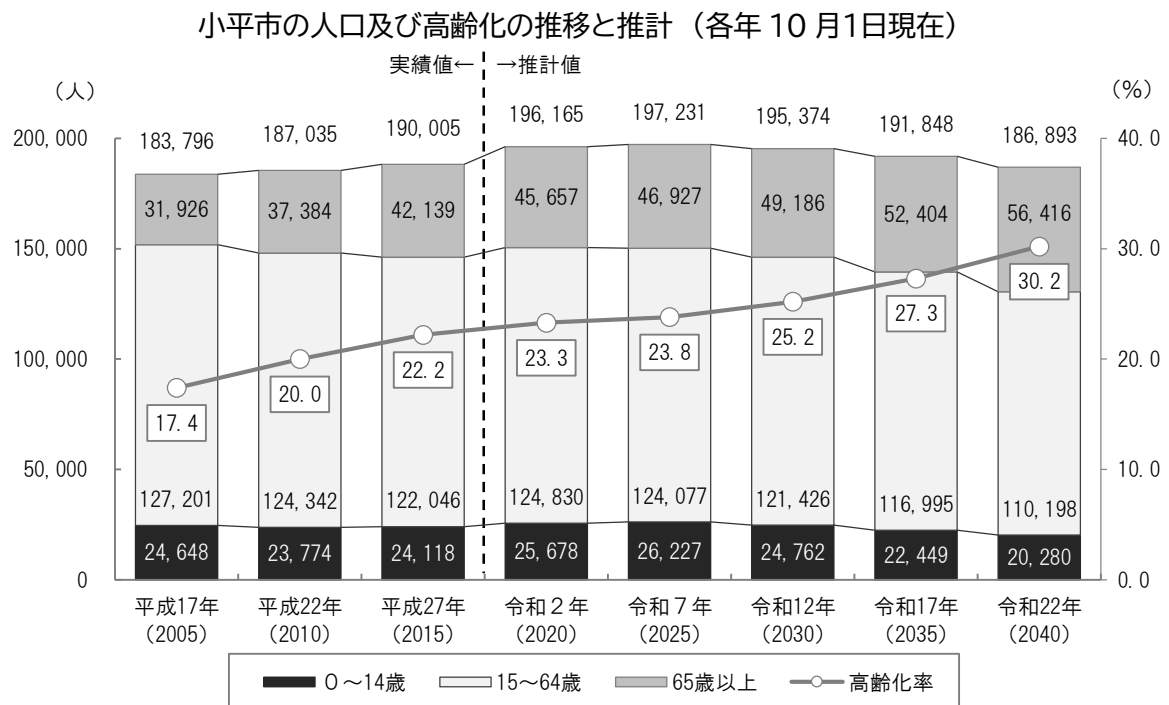


第2章 市の現状と課題

1 推計人口

(1)市の人口及び高齢化の推移と推計

小平市の総人口は、近年微増傾向にありますが、令和7(2025)年の197,231人をピークに減少に転じ、令和22(2040)年には、186,893人まで減少すると推計しています。一方、高齢者人口は、年々増加しており、令和7(2025)年には、46,927人、高齢化率は23.8%、団塊ジュニア世代が高齢者となる令和22(2040)年には、高齢者人口がさらに増加し、56,416人、高齢化率は30.2%まで上昇すると推計されています。



		実績			推計				
		平成 17 年 (2005)	平成 22 年 (2010)	平成 27 年 (2015)	令和2年 (2020)	令和7年 (2025)	令和 12 年 (2030)	令和 17 年 (2035)	令和 22 年 (2040)
総人口(人)		183,796	187,035	190,005	198,739	197,231	195,374	191,848	186,893
年齢3区分(人)	0～14 歳	24,648	23,774	24,118	25,072	26,227	24,762	22,449	20,280
	15～64 歳	127,201	124,342	122,046	121,648	124,077	121,426	116,995	110,198
	65 歳以上	31,926	37,384	42,139	45,060	46,927	49,186	52,404	56,416
	高齢化率 (%)	17.4	20.0	22.2	22.7	23.8	25.2	27.3	30.2

資料:「小平市人口推計報告書補足版(令和元年8月)」

※平成27年国勢調査結果等を基にしたコーホート要因法による推計。

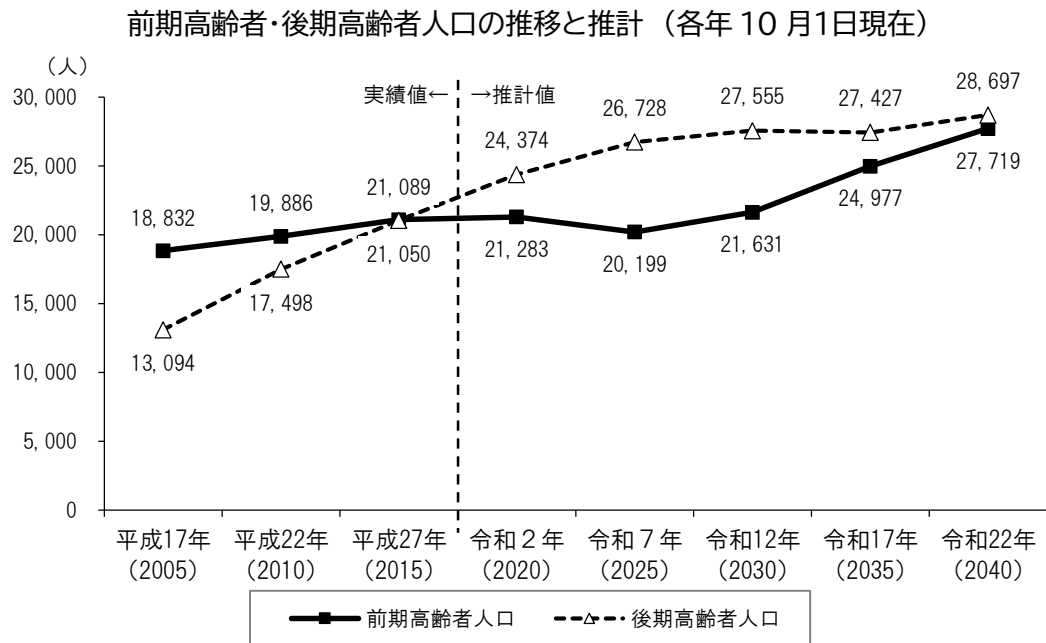
※令和2年度以降は小平市人口推計報告書補足版(令和元年8月)からの出典のため推計値となる。

※実績(令和2年度まで)の総人口には「年齢不詳」を含むため、年齢3区分の合計値と一致しない。

※推計(令和7年度から)の数値は、小数点以下を端数処理しているため、総人口が年齢3区分の合計値と一致しない場合がある。

(2)前期高齢者及び後期高齢者人口の推移と推計

前期高齢者(65歳～74歳)及び後期高齢者(75歳以上)人口の推移をみると、平成27(2015)年以降は、後期高齢者人口が前期高齢者を上回り、令和7(2025)年までは後期高齢者の伸び率は大きくなると推計されます。前期高齢者は令和7(2025)年に減少するものの、令和12(2030)年以降再び、大幅に増加していくと推計されます。



単位：人

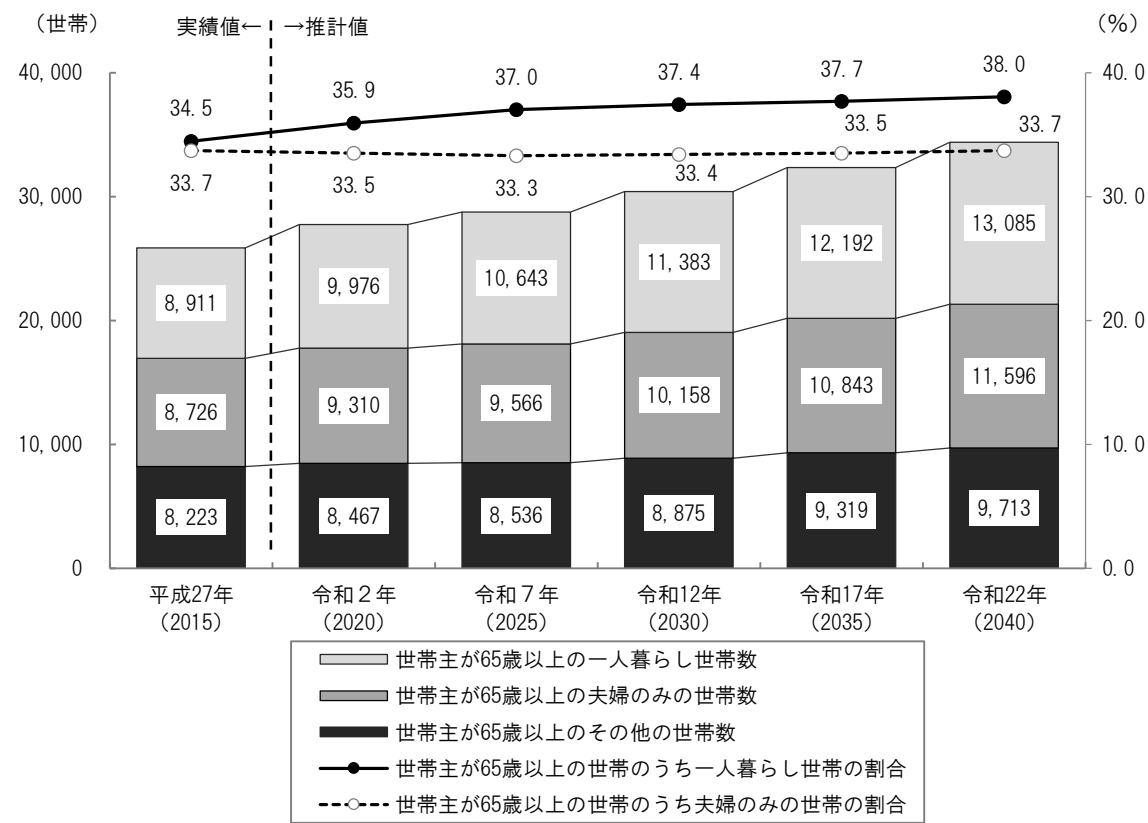
	実績			推計				
	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)	令和7年 (2025)	令和12年 (2030)	令和17年 (2035)	令和22年 (2040)
高齢者人口	31,926	37,384	42,139	45,657	46,927	49,186	52,404	56,416
前期高齢者人口	18,832	19,886	21,089	21,283	20,199	21,631	24,977	27,719
後期高齢者人口	13,094	17,498	21,050	24,374	26,728	27,555	27,427	28,697

資料：「小平市人口推計報告書補足版(令和元年8月)」

(3)高齢者世帯の推移と推計

世帯主が 65 歳以上の世帯は増加傾向にあり、今後も増加し続けていくことが予想されます。なかでも一人暮らし高齢者世帯、高齢者夫婦のみの世帯の増加が大きく、令和7(2025)年には 65 歳以上の方がいる世帯のうち7割を超えると推計されます。

高齢者世帯の推移と推計（各年 10 月1日現在）



	実績	推計				
	平成 27 年 (2015)	令和2年 (2020)	令和7年 (2025)	令和 12 年 (2030)	令和 17 年 (2035)	令和 22 年 (2040)
世帯主が 65 歳以上の 一般世帯※	25,860	27,753	28,745	30,416	32,354	34,394
世帯主が 65 歳以上の 一人暮らし世帯	8,911	9,976	10,643	11,383	12,192	13,085
割合(%)	34.5	35.9	37.0	37.4	37.7	38.0
世帯主が 65 歳以上の 夫婦のみの世帯	8,726	9,310	9,566	10,158	10,843	11,596
割合(%)	33.7	33.5	33.3	33.4	33.5	33.7
世帯主が 65 歳以上の その他の世帯	8,223	8,467	8,536	8,875	9,319	9,713

資料：東京都世帯数の予測(平成 31 年3月)

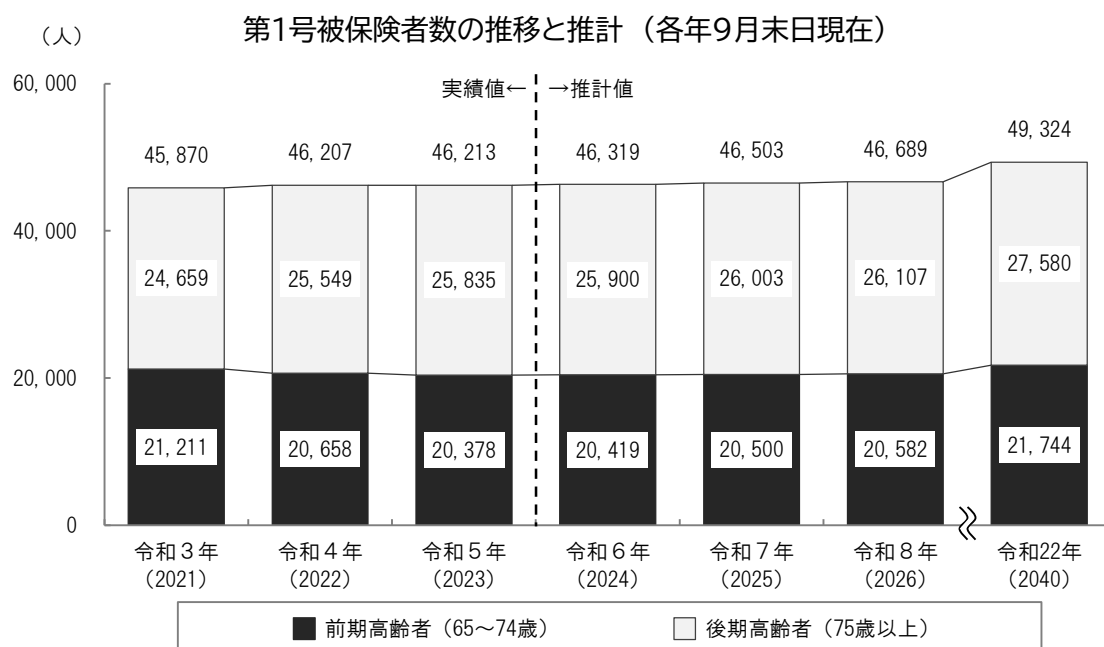
※平成 27 年国勢調査結果等を基にした推計。
※「一般世帯」とは、「施設等の世帯」(病院・療養所、老人ホームなどの社会施設等)以外の世帯。

令和5年の数値は1月分を使用して以降を推計
(2号は人口推計を使用)

(4)介護保険被保険者数の推移と推計

①第1号被保険者数（65歳以上）

第1号被保険者数は、今後も増加していくことが見込まれ、令和22(2040)年には49,324人になると推計されます。



単位：人

	実績			推計			
	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和22年 (2040)
第1号被保険者数	45,870	46,207	46,213	46,319	46,503	46,689	49,324
65～74歳	21,211	20,658	20,378	20,419	20,500	20,582	21,744
75歳以上	24,659	25,549	25,835	25,900	26,003	26,107	27,580

資料：小平市高齢者支援課推計

②第2号被保険者数（40歳～64歳）

第2号被保険者数は、長期的にみると生産年齢人口の減少に伴い、令和22(2040)年には66,709人になると推計されます。

第2号被保険者数の推移と推計（各年9月末日現在）

単位：人

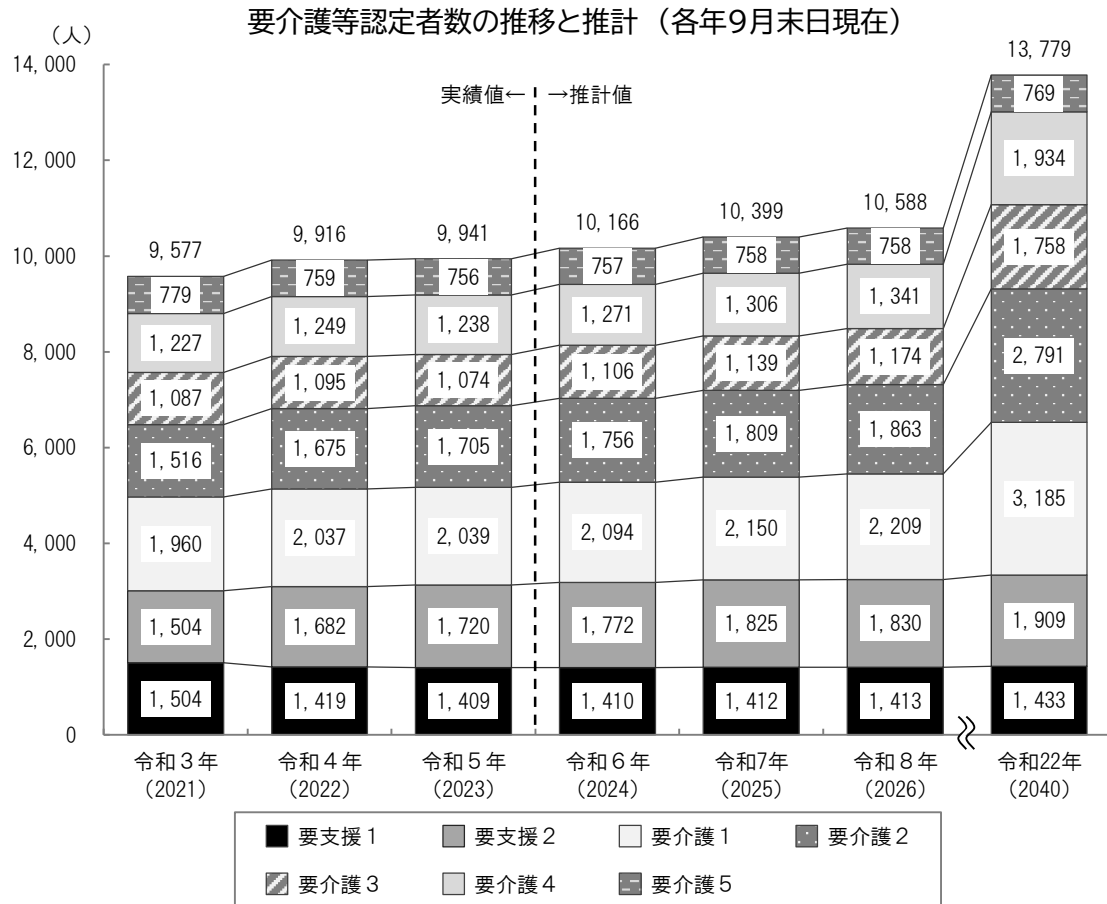
	実績			推計			
	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和22年 (2040)
第2号被保険者数	68,894	69,560	69,927	70,508	70,941	71,257	66,709

資料：小平市高齢者支援課推計

(5)(6) 令和5年の数値は1月分を使用して以降を推計

(5)要介護等認定者数の推移と推計

要介護等認定者数は、今後も増加していくことが見込まれ、令和22(2040)年には13,779人になると推計されます。



単位：人

	実績			推計			
	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和22年 (2040)
要支援1	1,504	1,419	1,409	1,410	1,412	1,413	1,433
要支援2	1,504	1,682	1,720	1,772	1,825	1,830	1,909
要介護1	1,960	2,037	2,039	2,094	2,150	2,209	3,185
要介護2	1,516	1,675	1,705	1,756	1,809	1,863	2,791
要介護3	1,087	1,095	1,074	1,106	1,139	1,174	1,758
要介護4	1,227	1,249	1,238	1,271	1,306	1,341	1,934
要介護5	779	759	756	757	758	758	769
計	9,577	9,916	9,941	10,167	10,399	10,588	13,778

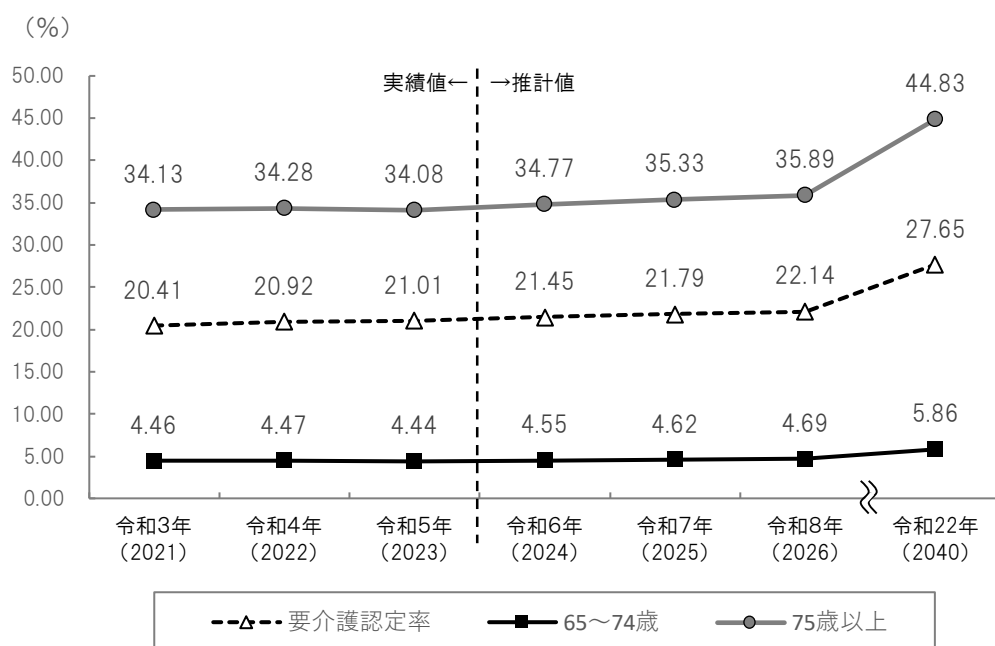
資料：小平市高齢者支援課推計

※第2号被保険者を含む。

(6)第1号被保険者に占める要介護等認定者の割合(認定率)の推移と推計

第1号保険者に占める要介護等認定者の割合(認定率)は、今後も上昇していくことが見込まれ、令和22(2040)年には27.65%になると推計されます。また、75歳以上では、令和22(2040)年には44.83%になると推計されます。

第1号被保険者に占める要介護等認定者の割合(認定率)の推移と推計 (各年9月末日現在)



	実績			推計			
	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和22年 (2040)
第1号被保険者数 (人)	45,870	46,207	46,213	46,319	46,503	46,689	49,324
65～74歳	21,211	20,658	20,378	20,419	20,500	20,582	21,744
75歳以上	24,659	25,549	25,835	25,900	26,003	26,107	27,580
要介護等認定者数 (人)	9,361	9,682	9,708	9,934	10,134	10,336	13,639
65～74歳	945	924	904	928	947	966	1,275
75歳以上	8,416	8,758	8,804	9,006	9,187	9,370	12,364
認定率(%)	20.41	20.92	21.01	21.45	21.79	22.14	27.65
65～74歳	4.46	4.47	4.44	4.55	4.62	4.69	5.86
75歳以上	34.13	34.28	34.08	34.77	35.33	35.89	44.83

資料:小平市高齢者支援課推計

(7)認知症高齢者数の推移と推計

作成中

《参考》認知症高齢者の日常生活自立度判定基準

ランク	判断基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
II a	家庭外で上記 II の状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
II b	家庭内で上記 II の状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応など一人で留守番ができない等
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。	
III a	日中を中心として上記 III の状態が見られる。	着替え、食事、排便、排尿が上手にできない、時間がかかる。 やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
III b	夜間を中心として上記 III の状態が見られる。	ランク III a に同じ
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランク III に同じ
M	著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他傷等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等

資料:「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」の活用について
(平成 18 年 4 月 3 日老発 0403003 号)

認知症高齢者の在宅割合（令和 5 年 9 月末日現在）

作成中

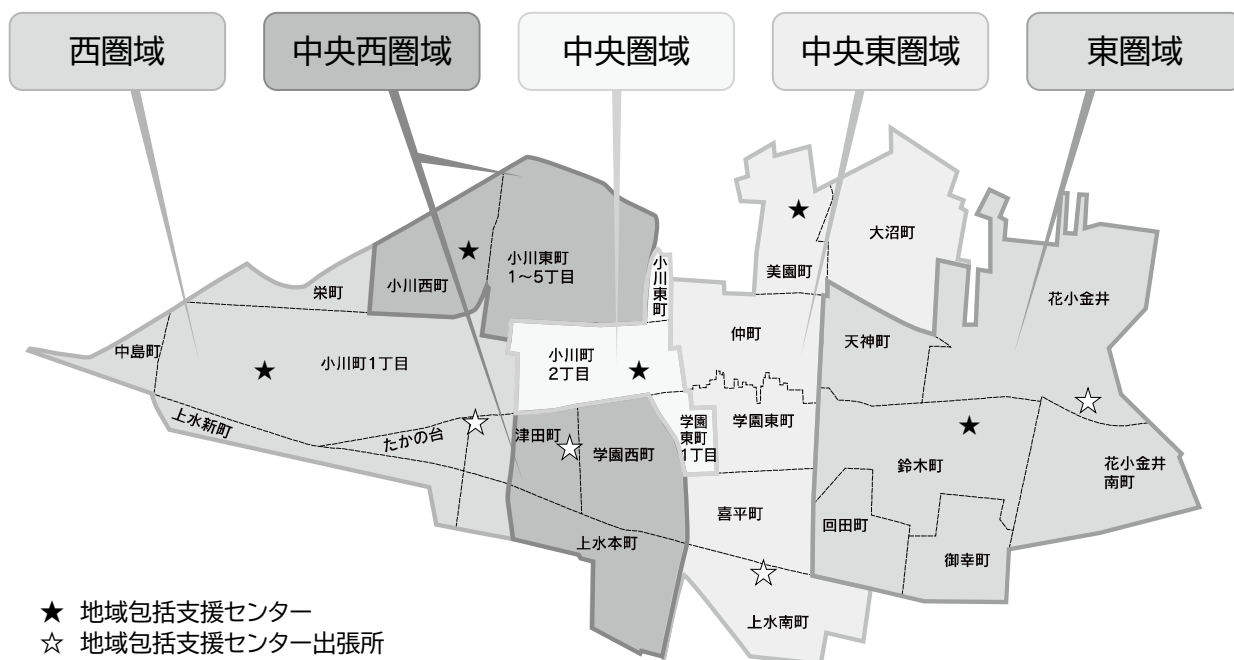
資料:小平市高齢者支援課作成

2 日常生活圏域別の現状

(1) 日常生活圏域の区分

第3期介護保険事業計画から、地域の実情を踏まえたきめ細かい高齢者福祉・介護の環境づくりをめざすものとして、日常生活圏域の考え方が取り入れられました。

小平市では、地域の成り立ちや人口の分布状況などから、市内を5圏域に区分し、圏域ごとの中核拠点として地域包括支援センター（高齢者あんしん相談窓口）を設置しています。



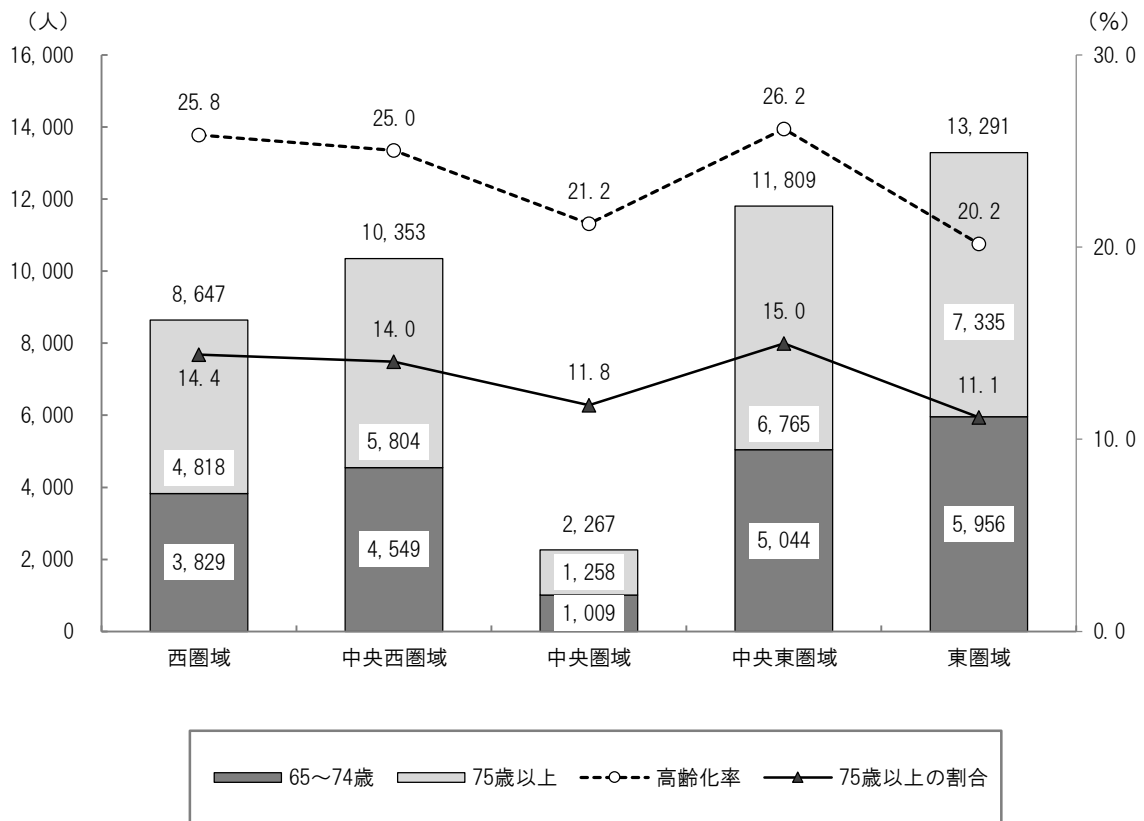
	西圏域	中央西圏域	中央圏域※	中央東圏域	東圏域
町名	栄町1～3丁目 中島町 小川町1丁目 たかの台 津田町1丁目 上水新町1～3丁目 上水本町1丁目	小川西町1～5丁目 小川東町1～5丁目 津田町2～3丁目 学園西町1～3丁目 上水本町2～6丁目	小川東町 小川町2丁目 学園東町1丁目	美園町1～3丁目 大沼町1～7丁目 仲町 学園東町2～3丁目 学園東町 喜平町1～3丁目 上水南町1～4丁目	花小金井1～8丁目 天神町1～4丁目 鈴木町1～2丁目 花小金井南町 1～3丁目 回田町 御幸町
地域 包括支援 センター	けやきの郷 けやきの郷 たかの台 出張所	小川ホーム 小川ホーム 四小通り 出張所	中央センター (基幹型)	多摩済生 ケアセンター 多摩済生 ケアセンター 喜平橋出張所	小平健成苑 小平健成苑 花小金井 出張所

※中央圏域を担当する中央センターは、基幹型地域包括支援センターとして、各地域包括支援センターの統括や連絡調整、後方支援、人材育成も行うため、担当する日常生活圏域は小区域としている。

(2)高齢者の状況

日常生活圏域別の高齢者人口を見ると、東圏域が13,291人と最も多く、次いで中央東圏域が11,809人、中央西圏域が10,353人となっています。高齢化率を見ると、中央東圏域が26.2%と最も高く、次いで西圏域が25.8%、中央西圏域が25.0%となっています。

日常生活圏域別の高齢者の状況（令和5年4月1日現在）



	西圏域	中央西圏域	中央圏域	中央東圏域	東圏域	合計
総人口(人)	33,459	41,358	10,686	45,154	65,886	196,543
高齢者人口(人)	8,647	10,353	2,267	11,809	13,291	46,367
65～74 歳	3,829	4,549	1,009	5,044	5,956	20,387
75 歳以上	4,818	5,804	1,258	6,765	7,335	25,980
高齢化率(%)	25.8	25.0	21.2	26.2	20.2	23.6
65～74 歳	11.4	11.0	9.4	11.2	9.0	10.4
75 歳以上	14.4	14.0	11.8	15.0	11.1	13.2

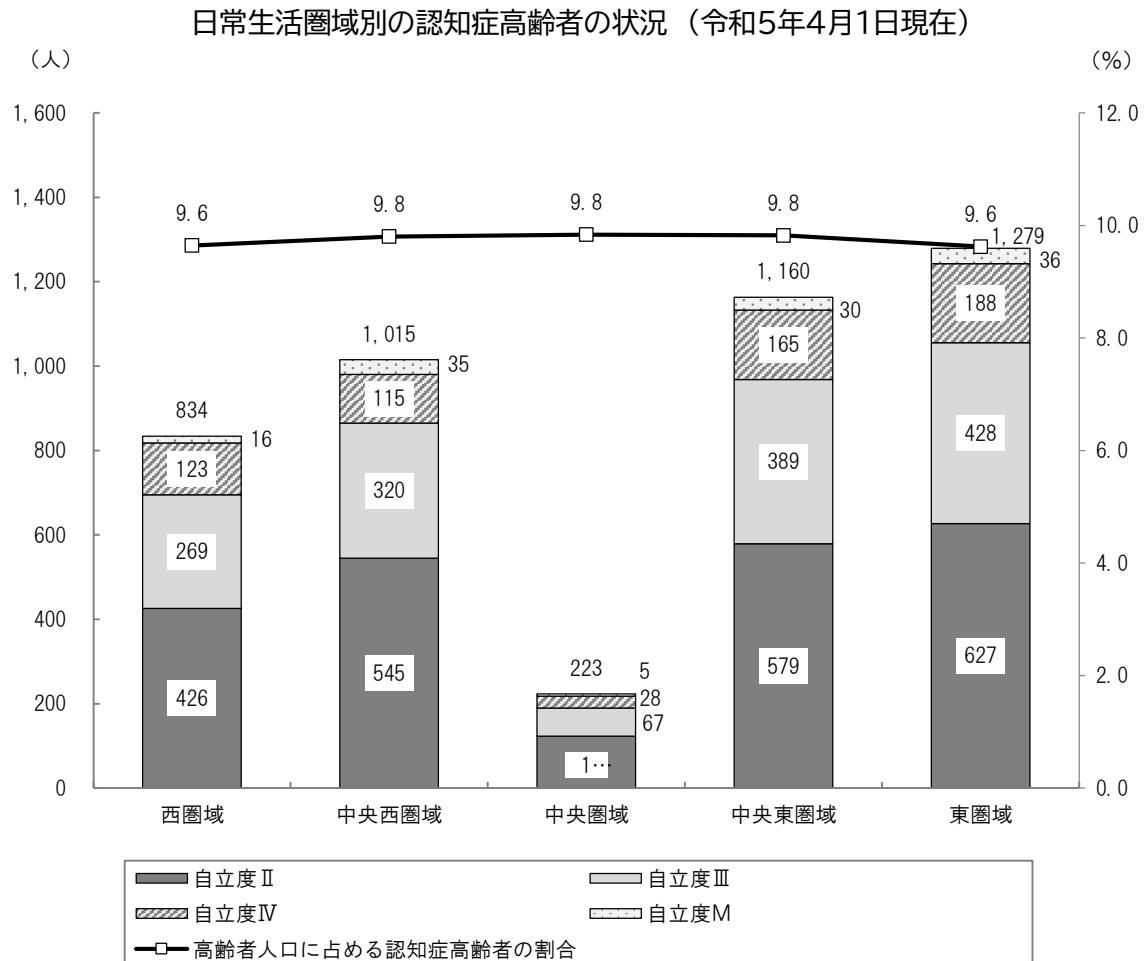
資料:住民基本台帳

(3)要介護等認定者の状況

作成中

(4) 認知症高齢者の状況

日常生活圏域別の認知症高齢者数を見ると、東圏域が1,279人と最も多く、次いで中央東圏域が1,160人、中央西圏域が1,015人となっています。高齢者人口に占める認知症高齢者の割合を見ると、中央西圏域・中央圏域・中央東圏域が9.8%と最も高く、次いで西圏域と東圏域が9.6%となっています。



	西圏域	中央西圏域	中央圏域	中央東圏域	東圏域	合計
自立度Ⅱ(人)	426	545	123	579	627	2,297
自立度Ⅲ(人)	269	320	67	389	428	1,473
自立度Ⅳ(人)	123	115	28	165	188	619
自立度M(人)	16	35	5	30	36	122
合計(人)	834	1,015	223	1,160	1,279	4,511
高齢者人口(人)	8,647	10,353	2,267	11,809	13,291	46,367
高齢者人口に占める 認知症高齢者の割合(%)	9.6	9.8	9.8	9.8	9.6	9.7

資料：小平市高齢者支援課作成

※認知症高齢者：要介護認定調査における日常生活自立度Ⅱ以上の高齢者

(5)介護保険施設等の状況

日常生活圏域別の介護保険施設等の状況は、以下のようになっています。

日常生活圏域別の介護保険施設等の状況

(令和6年1月1日現在)

		西圏域	中央西圏域	中央圏域	中央東圏域	東圏域	合計
特別養護老人ホーム	施設数※	3	1	0	2	4	10
	定員数	274	77	0	204	294	849
介護老人保健施設	施設数	1	0	0	0	1	2
	定員数	100	0	0	0	150	250
介護療養型医療施設	施設数	0	0	0	1	0	1
	定員数	0	0	0	45	0	45
介護付有料老人ホーム (特定施設入居者生活介護)	施設数	3	2	1	7	3	16
	定員数	235	121	47	526	181	1110
認知症高齢者 グループホーム	施設数	3	1	1	3	2	10
	定員数	45	18	18	54	36	171
住宅型有料老人ホーム	施設数	0	1	0	3	1	5
	定員数	0	5	0	134	64	203
サービス付き高齢者向け 住宅	施設数	2	2	1	2	4	11
	定員数	98	99	32	64	87	380
高齢者住宅 (シルバーピア)	棟数	1	6	0	4	2	13
	戸数	20	146	0	94	67	307

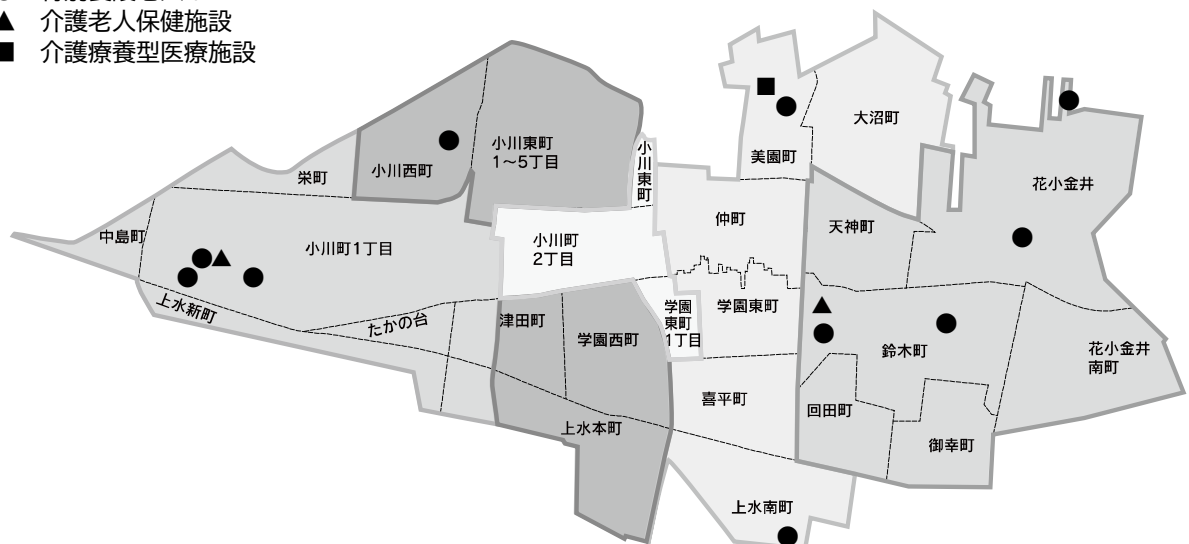
資料:小平市高齢者支援課作成

※同一建物で2つの指定を受けている特別養護老人ホームは、1か所と換算している。

小平市の介護保険施設等の分布図

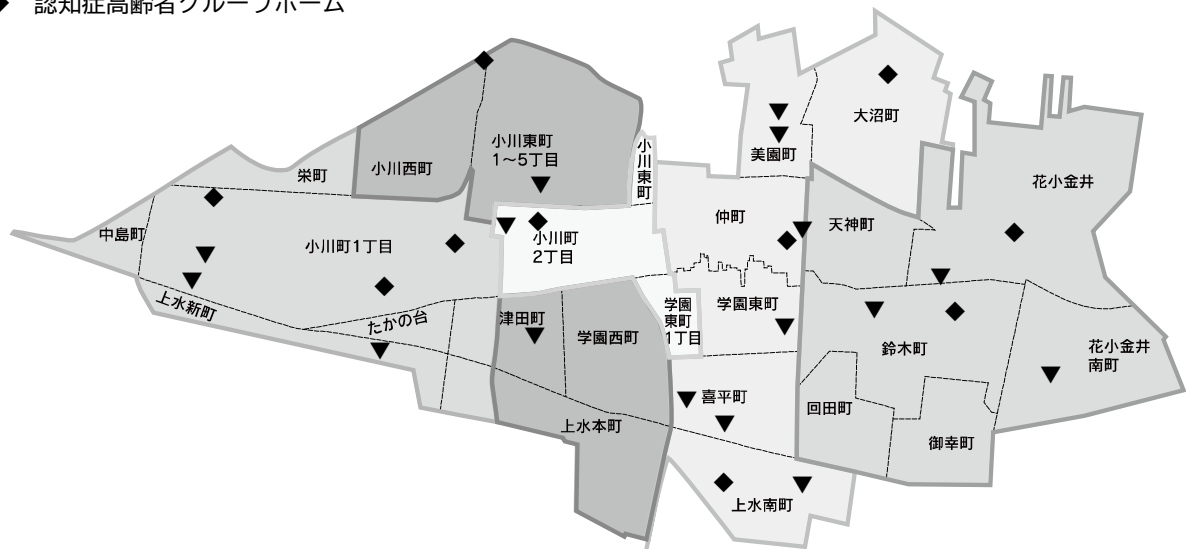
①特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・介護療養型医療施設

- 特別養護老人ホーム
- ▲ 介護老人保健施設
- 介護療養型医療施設



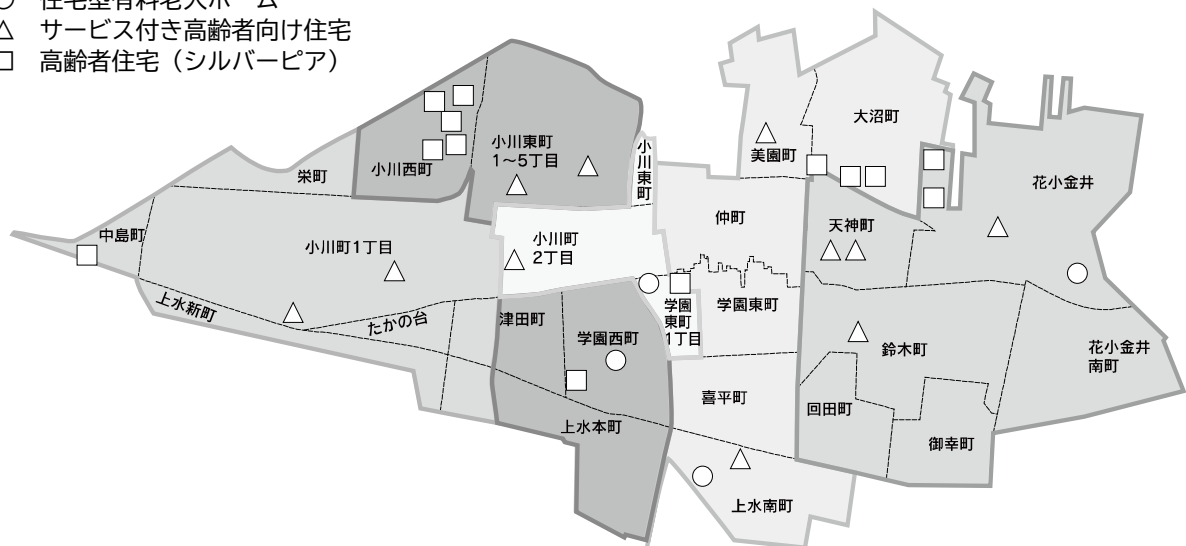
②介護付有料老人ホーム・認知症高齢者グループホーム

- ▼ 介護付有料老人ホーム
- ◆ 認知症高齢者グループホーム



③住宅型有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅・高齢者住宅（シルバーピア）

- 住宅型有料老人ホーム
- △ サービス付き高齢者向け住宅
- 高齢者住宅（シルバーピア）



(6)生活機能評価の回答結果から見た各圏域別の状況

①生活機能評価の概要

市では、65 歳以上の高齢者に対して、厚生労働省が示している「介護予防・日常生活圏域二
ーズ調査実施の手引き」に基づく生活機能に関する調査を行っています。

判定の基礎となる設問は下表となり、以下の設問に該当する場合にリスク該当者として判定
されます。

i)運動器の機能低下:5項目のうち3項目以上に該当する人

ii)閉じこもり傾向:該当する人

iii)転倒リスク:該当する人

iv)低栄養傾向:2項目のすべてに該当する人

v)口腔機能の低下:3項目のうち2項目以上に該当する人

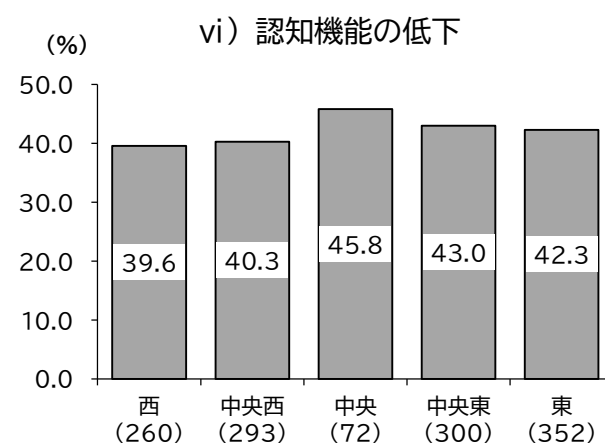
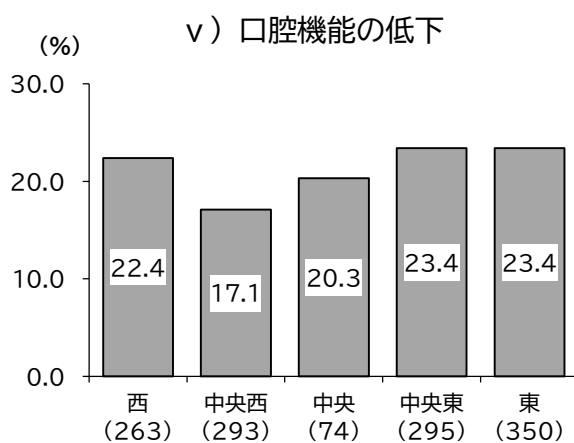
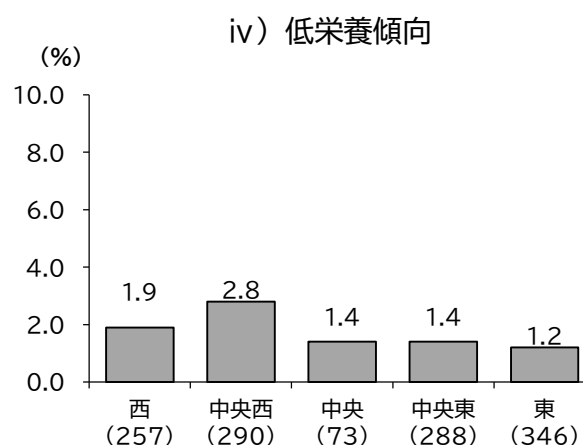
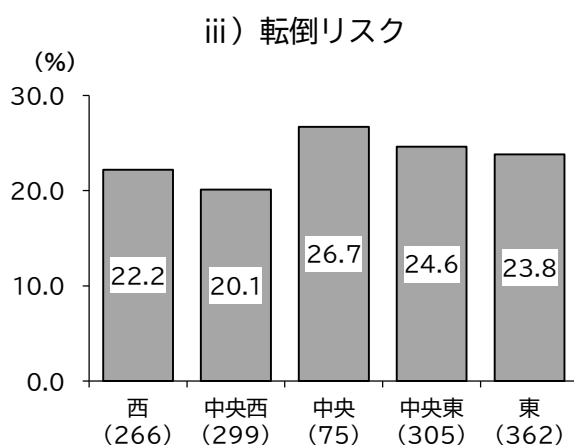
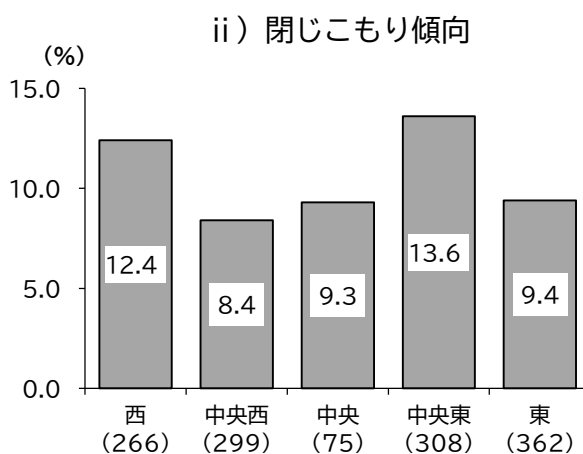
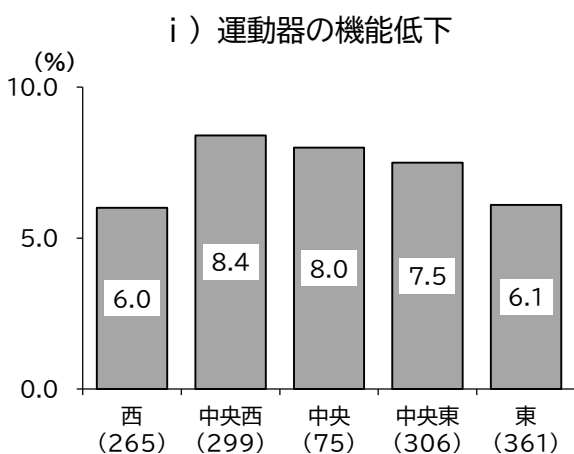
vi)認知機能の低下:該当する人

vii)うつ傾向:2項目のうち1項目以上に該当する人

項目	設問	該当する選択肢
運動器の 機能低下	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	3. できない
	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	3. できない
	15 分位続けて歩いていますか。	3. できない
	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある
	転倒に対する不安は大きいですか。	1. とても不安である 2. やや不安である
閉じこもり 傾向	週に1回以上は外出していますか。	1. ほとんど外出しない 2. 週1回
転倒リスク	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある
低栄養傾向	身長・体重をご記入ください。	BMI18.5以下
	この6か月間で2～3kg 以上の体重減少がありましたか。	1. はい
口腔機能の 低下	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1. はい
	お茶や汁物等でむせることがありますか。	1. はい
	口の渇きが気になりますか。	1. はい
認知機能の 低下	物忘れが多いと感じますか。	1. はい
うつ傾向	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	1. はい
	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	1. はい

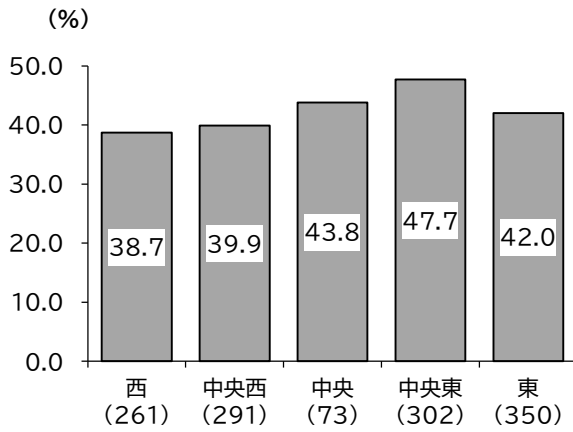
②生活機能評価の回答結果から見た各圏域別の状況

令和4(2022)年度実施の生活機能評価回答結果から各圏域別の状況を見ると、運動器の機能低下と低栄養傾向は中央西圏域で、閉じこもり傾向と口腔機能の低下とうつ傾向は中央東圏域で、転倒リスクと認知機能の低下は中央圏域で、それぞれ該当する方の割合がやや高くなっています。



※各圏域の()内は有効回答数

vii) うつ傾向



※各圏域の()内は有効回答数

上段：人数、下段：%

	西圏域	中央西圏域	中央圏域	中央東圏域	東圏域
有効回答数合計	266	299	75	306	361
運動器の機能低下該当者	16	25	6	23	22
	6.0	8.4	8.0	7.5	6.1
閉じこもり傾向該当者	33	25	7	42	34
	12.4	8.4	9.3	13.6	9.4
転倒リスク該当者	59	60	20	75	86
	22.2	20.1	26.7	24.6	23.8
低栄養傾向該当者	5	8	1	4	4
	1.9	2.8	1.4	1.4	1.2
口腔機能の低下該当者	59	50	15	69	82
	22.4	17.1	20.3	23.4	23.4
認知機能の低下該当者	103	118	33	129	149
	39.6	40.3	45.8	43.0	42.3
うつ傾向該当者	101	116	32	144	147
	38.7	39.9	43.8	47.7	42.0

3 アンケート調査結果に見る高齢者の現状

(1) アンケート調査の概要

① 調査の目的

本計画の基礎資料とするため、高齢者の生活状況や支援サービスの利用意向、要支援・要介護認定を受けた方のサービス利用実態、意向等を把握し、今後の高齢者福祉施策や介護保険サービスの基盤整備、新たな施策の対応等に資することを目的に実施しました。

② 調査対象

- i) 一般高齢者アンケート(要支援・要介護認定者を除く)
小平市にお住まいの65歳以上の高齢者 2,000人
- ii) 介護保険サービス利用状況アンケート
介護保険の在宅サービスを利用されている方 1,800人
- iii) 介護保険サービス利用状況アンケート
介護保険の施設・居住系サービスを利用されている方 900人
- iv) 介護保険サービス利用状況アンケート
介護保険サービスを利用されていない方 900人
- v) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査(要介護認定者を除く)
小平市にお住まいの65歳以上の高齢者 2,000人
- vi) 介護支援専門員(ケアマネジャー)アンケート
市内居宅介護支援事業所の介護支援専門員(ケアマネジャー) 133人

③ 調査期間

令和4(2022)年11月21日から12月20日まで

④ 回収状況

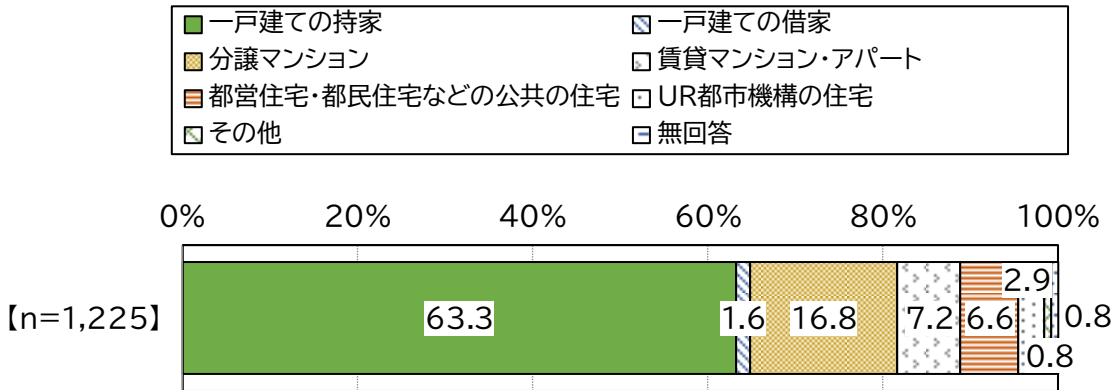
種類		配布数	有効回収数	有効回収率
i	一般高齢者	2,000	1,225	61.3%
ii	在宅サービス利用者	1,800	1,032	57.3%
iii	施設・居住系サービス利用者	900	420	46.7%
iv	介護保険サービス未利用者	900	532	59.1%
v	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	2,000	1,325	66.3%
vi	介護支援専門員(ケアマネジャー)	133	111	83.5%
合計		7,733	4,645	60.1%

(2)アンケート調査結果

①住まいに関すること

○住まいの種類(一般高齢者 問6)

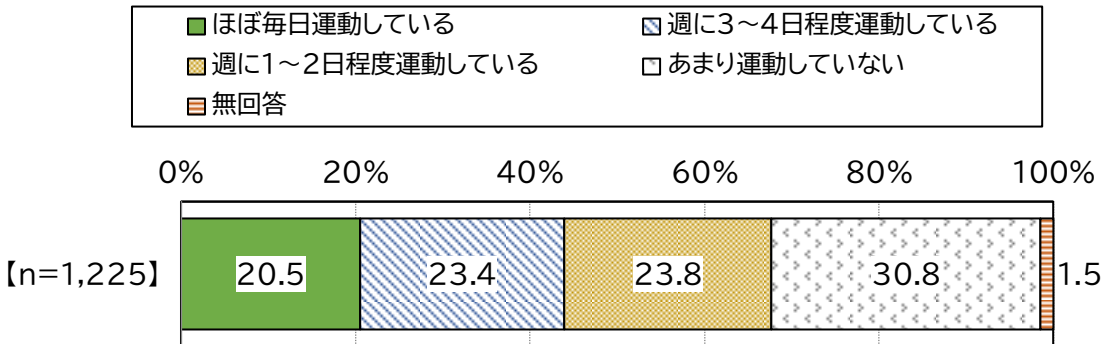
「一戸建ての持家」が 63.3%と最も高く、次いで「分譲マンション」が 16.8%、「賃貸マンション・アパート」が7.2%となっています。



②介護予防事業などへの関心

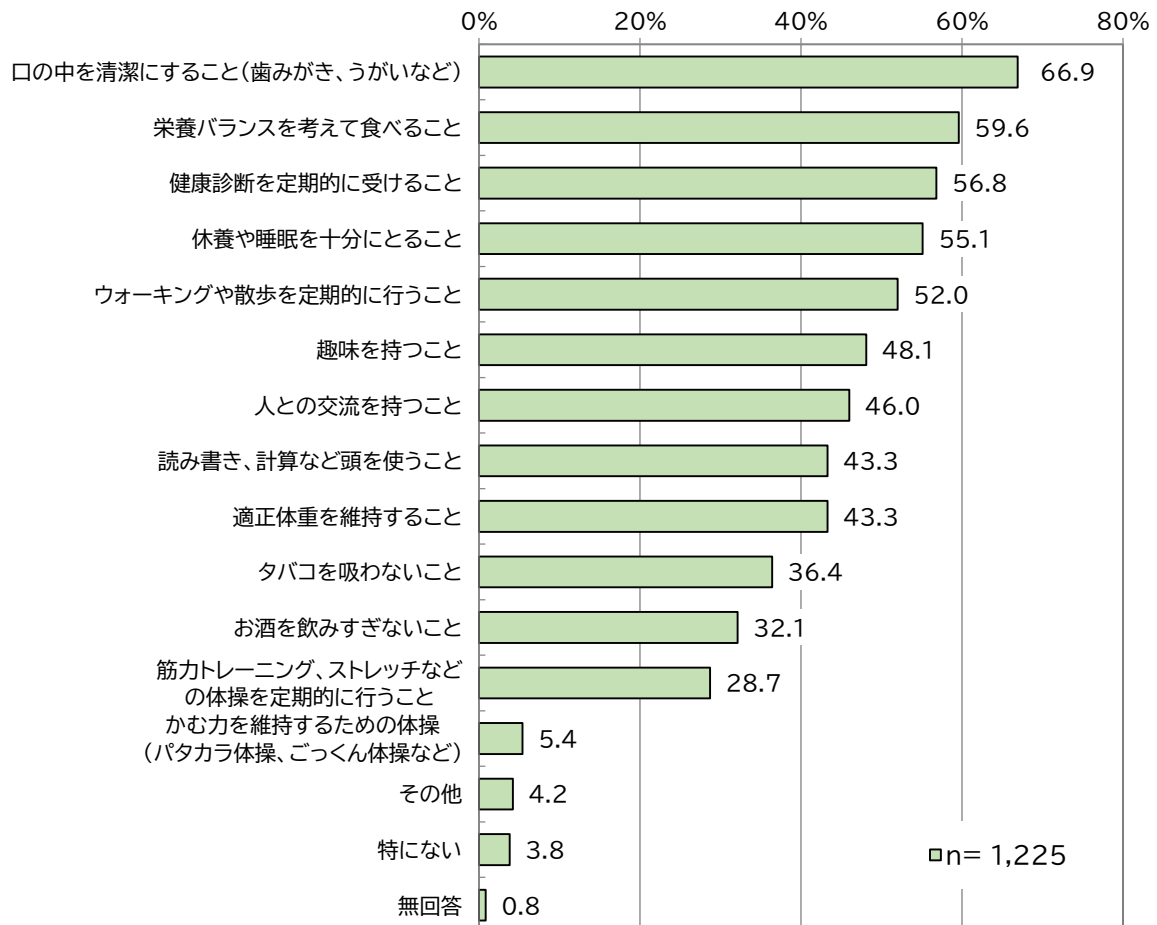
○定期的な運動(一般高齢者 問 10)

「ほぼ毎日運動している」、「週に3～4日程度運動している」、「週に1～2日程度運動している」をあわせた“週1回以上運動している”が 67.7%となっています。「あまり運動していない」が 30.8%となっています。



○元気で過ごしていくために行っていること（一般高齢者 問11）

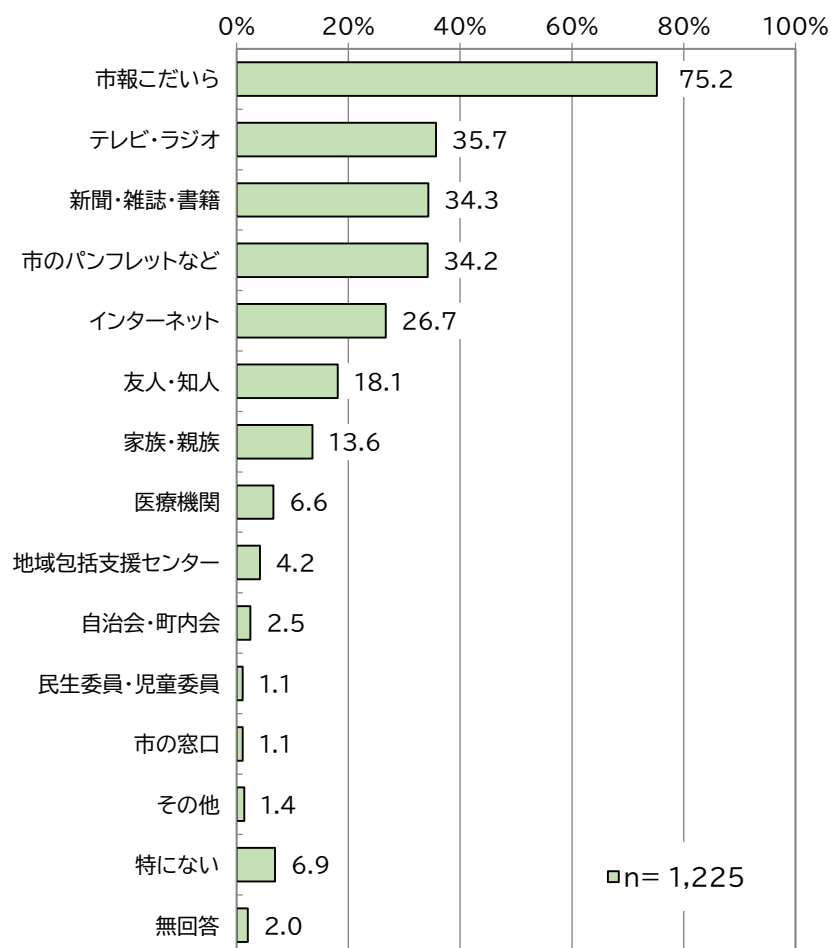
「口の中を清潔にすること」が66.9%と最も高く、次いで「栄養バランスを考えて食べること」が59.6%、「健康診断を定期的に受けること」が56.8%、「休養や睡眠を十分にとること」が55.1%となっています。



③情報入手手段・広報

○介護や保健・福祉に関する情報の入手手段(一般高齢者 問18)

「市報こだいら」が75.2%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」が35.7%、「新聞・雑誌・書籍」が34.3%となっています。

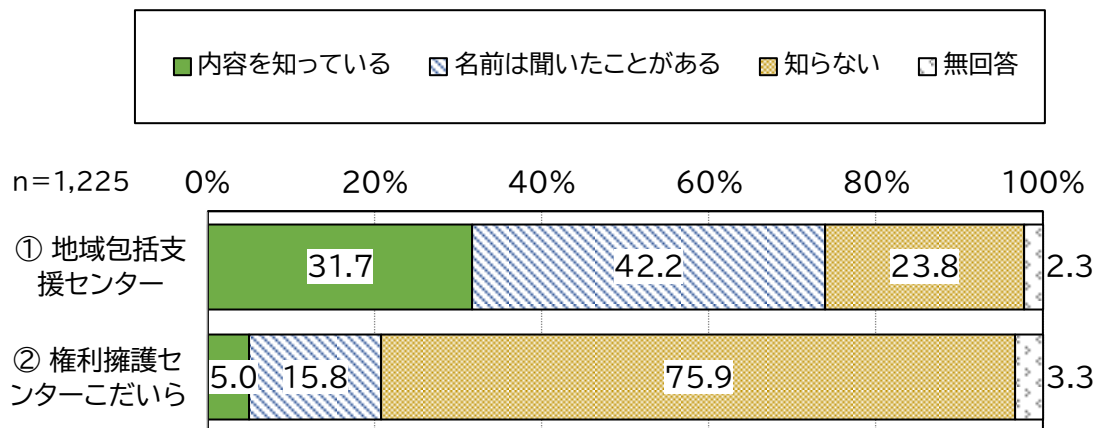


④相談窓口に関すること

○相談窓口の認知度(一般高齢者 問 19)

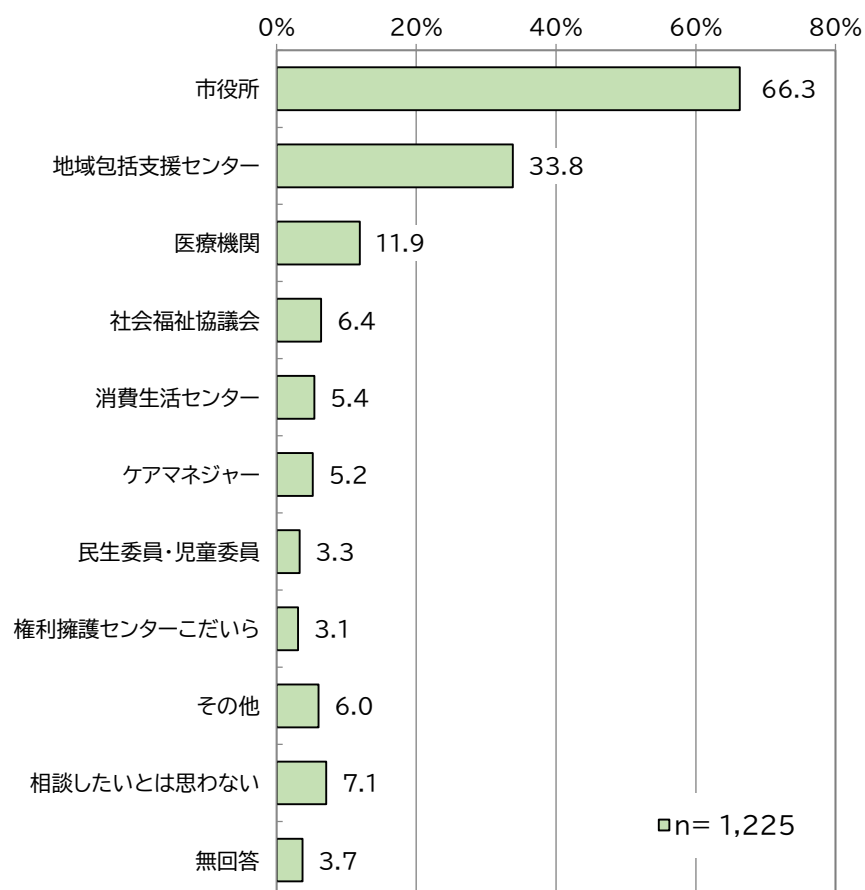
①の地域包括支援センターについては、「内容を知っている」が31.7%、「名前は聞いたことがある」が42.2%と、約7割の方に知られています。

②の権利擁護センターこだいらについては、「内容を知っている」が5.0%、「名前は聞いたことがある」が15.8%で、約2割の方に知られています。



○相談したい窓口(一般高齢者 問 20)

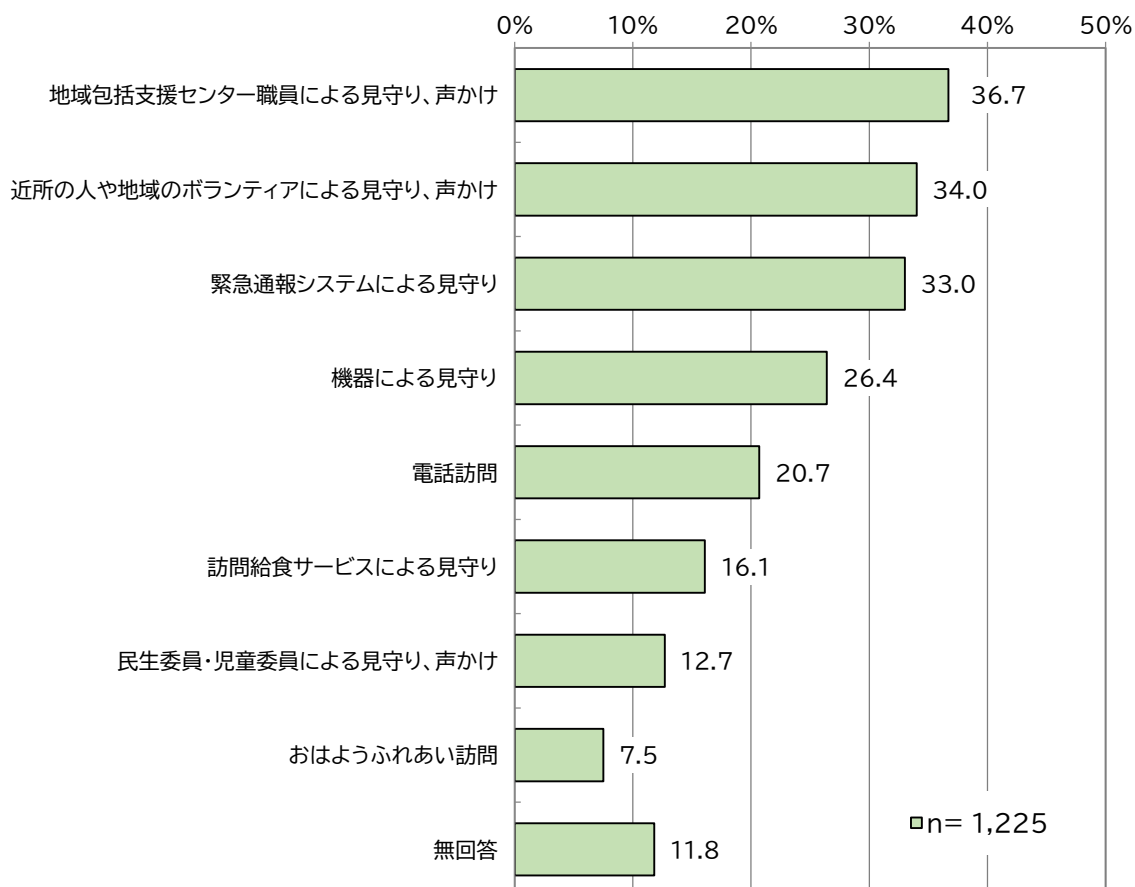
「市役所」が66.3%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」が33.8%となっています。「相談したいとは思わない」の割合が7.1%となっています。



⑤見守りに関する取組

○希望する見守りや声かけの方法(一般高齢者 問 21)

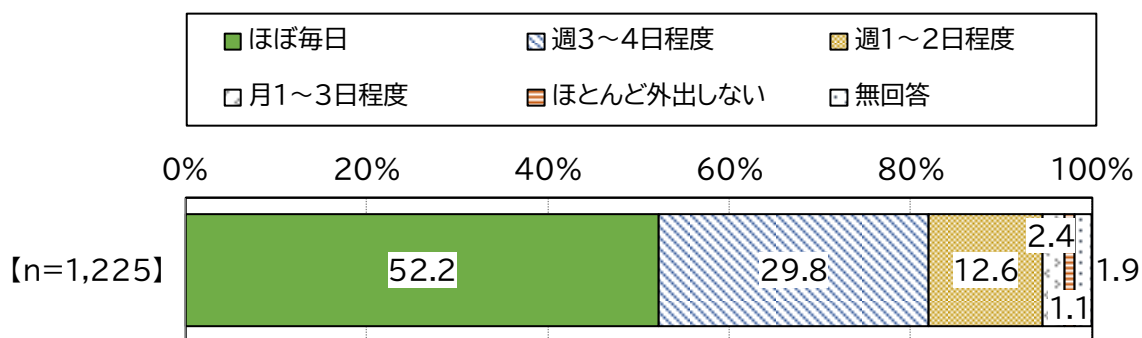
「地域包括支援センター職員による見守り、声かけ」が 36.7%と最も高く、次いで「近所の人や地域のボランティアによる見守り、声かけ」が 34.0%、「緊急通報システムによる見守り」が 33.0%となっています。



⑥外出・移動について

○外出の頻度(一般高齢者 問 14)

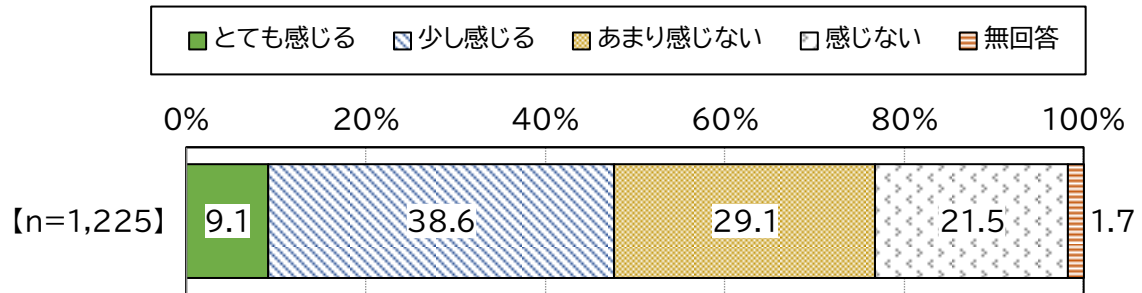
「ほぼ毎日」が 52.2%と最も高く、次いで「週3～4日程度」が 29.8%、「週1～2日程度」が 12.6%となっています。



⑦地域とのつながり、交流

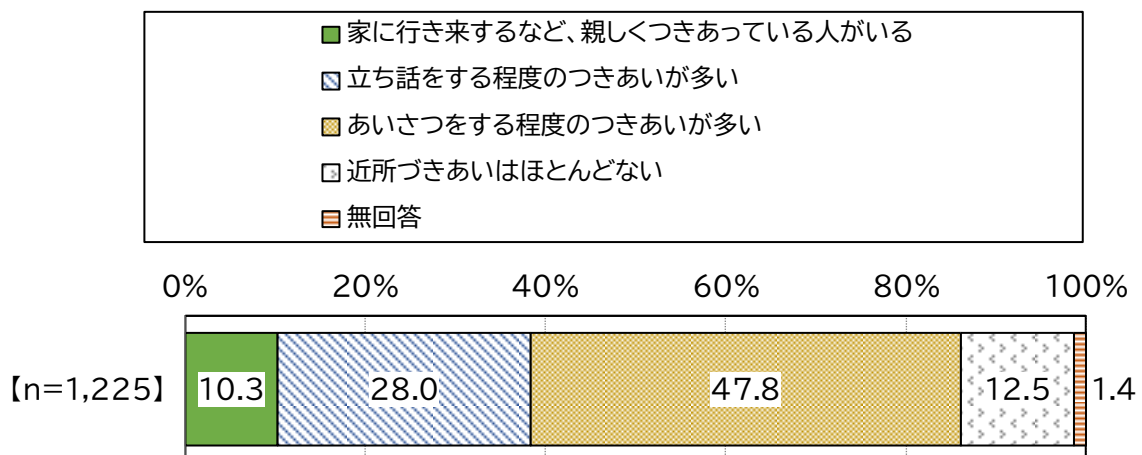
○地域とのつながりの実感(一般高齢者 問 22)

「とても感じる」と「少し感じる」をあわせた“感じる”が 47.7%、「あまり感じない」と「感じない」をあわせた“感じない”が 50.6%となっています。



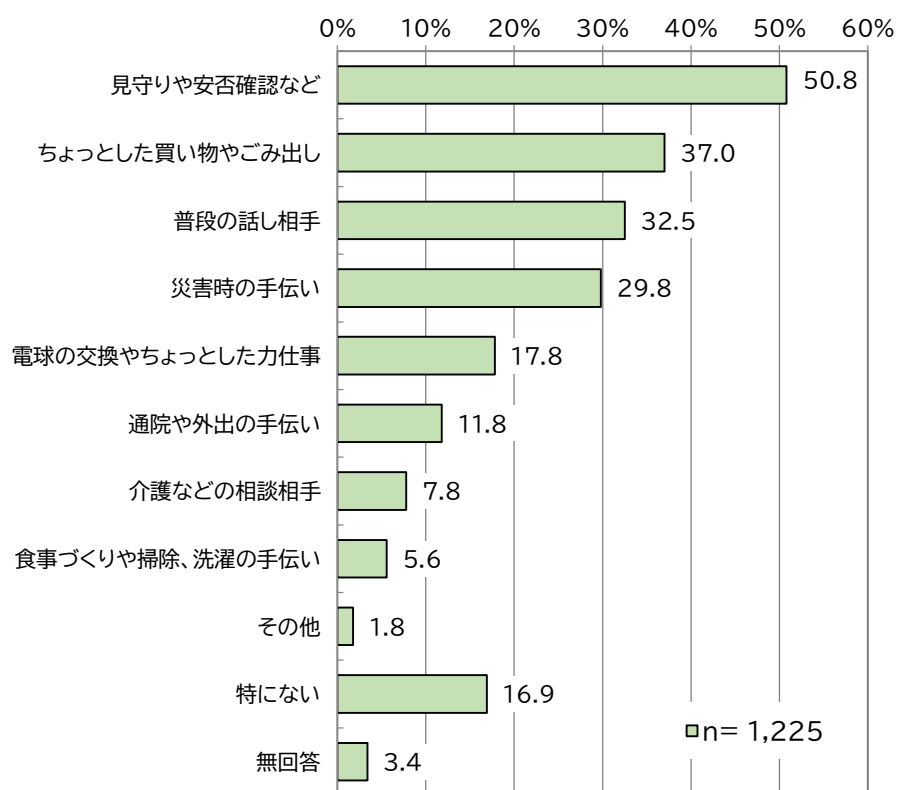
○近所づきあいの程度(一般高齢者 問 23)

「あいさつをする程度のつきあいが多い」が 47.8%と最も高く、次いで「立ち話をする程度のつきあいが多い」が 28.0%、「家に行き来するなど、親しくつきあっている人がいる」が 10.3%となっています。



○地域で困っている世帯に対してあなた自身ができる手助け（一般高齢者 問 25）

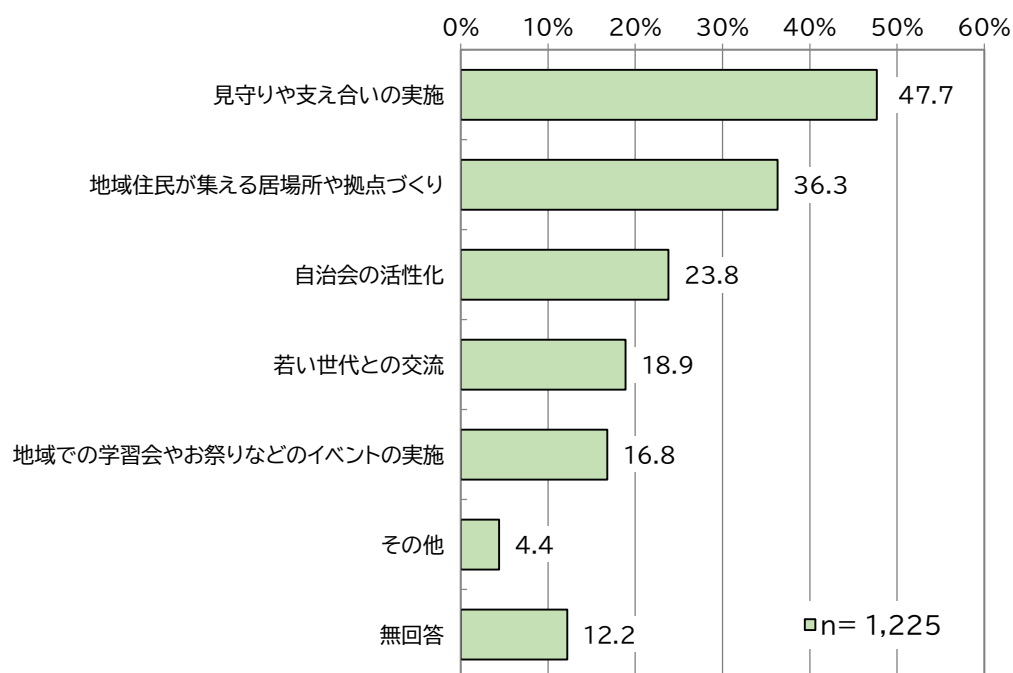
「見守りや安否確認など」が 50.8%と最も高く、次いで「ちょっとした買い物やごみ出し」が 37.0%、「普段の話し相手が 32.5%となっています。



⑧地域活動への参加

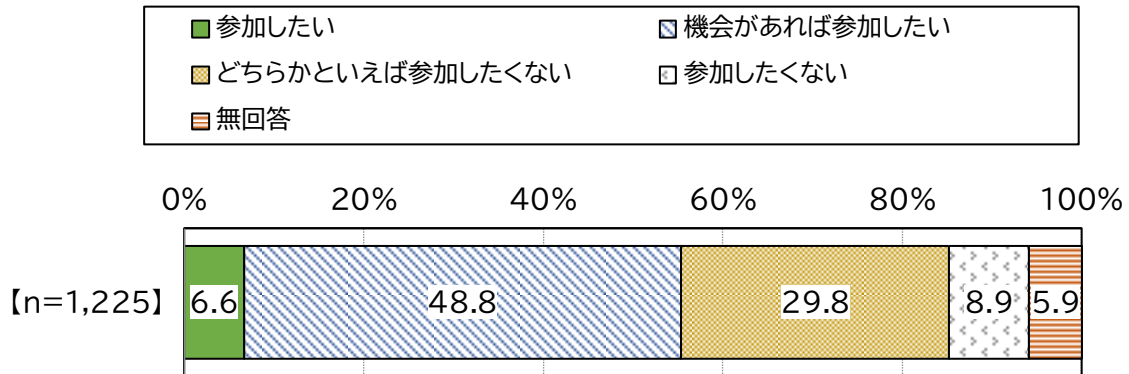
○地域住民が助け合える地域を作るための有効な手段（一般高齢者 問 26）

「見守りや支え合いの実施」が 47.7%と最も高く、次いで「地域住民が集える居場所や拠点づくり」が 36.3%、「自治会の活性化」が 23.8%となっています。



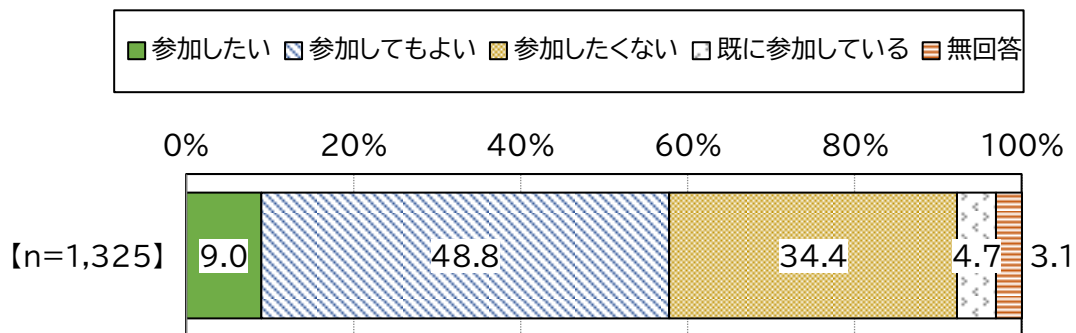
○地域の交流の場(通いの場など)への参加意向(一般高齢者 問 27)

「参加したい」と「機会があれば参加したい」をあわせた“参加したい”の割合が 55.4%、
「どちらかといえば参加したくない」と「参加したくない」をあわせた“参加したくない”の割合
が 38.7%となっています。



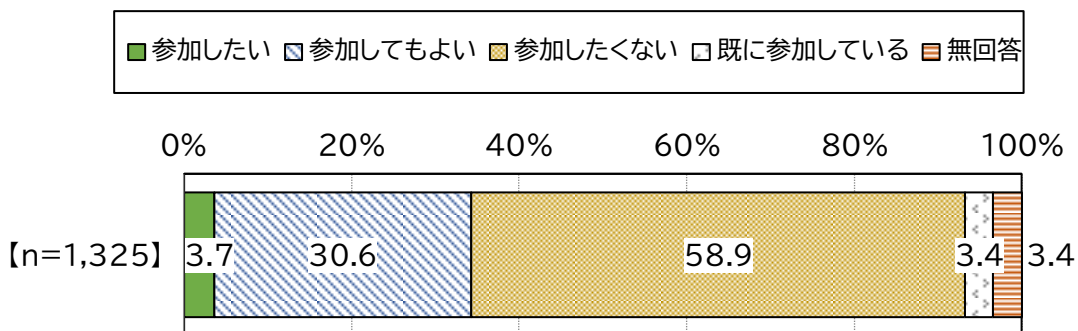
○地域住民による健康づくり活動や趣味等のグループ活動への参加意向(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 問 34)

「参加してもよい」が 48.8%と最も高く、次いで「参加したくない」が 34.4%、「参加したい」が 9.0%となっています。



○地域住民による健康づくり活動や趣味等のグループ活動の運営・企画としての参加意向(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 問 35)

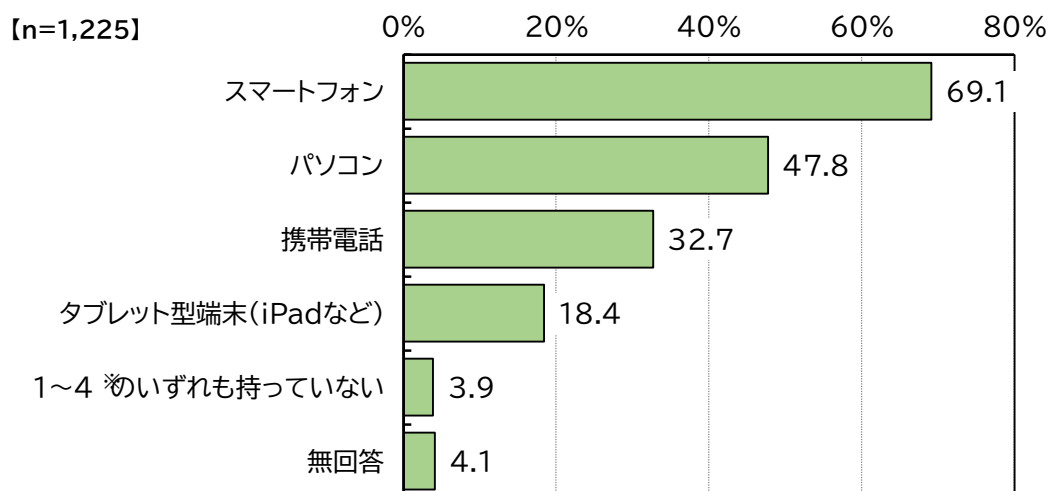
「参加したくない」が 58.9%と最も高く、次いで「参加してもよい」が 30.6%となっています。



⑨情報機器の利用について

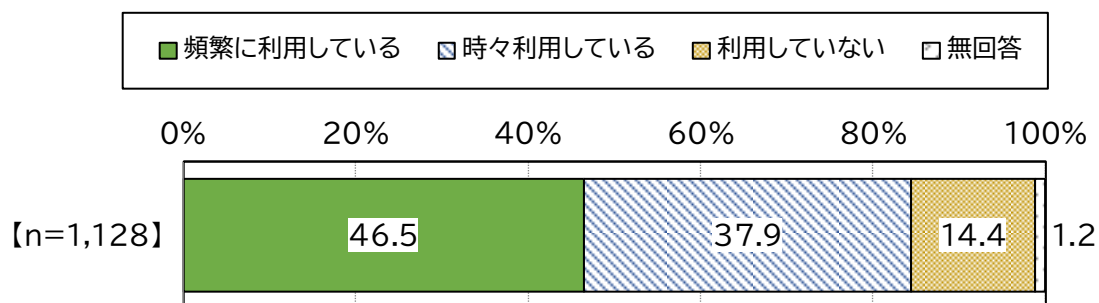
○情報機器の取得状況（一般高齢者 問 30）

「スマートフォン」が 69.1%と最も高く、次いで「パソコン」が 47.8%、「携帯電話」が 32.7%となっています。



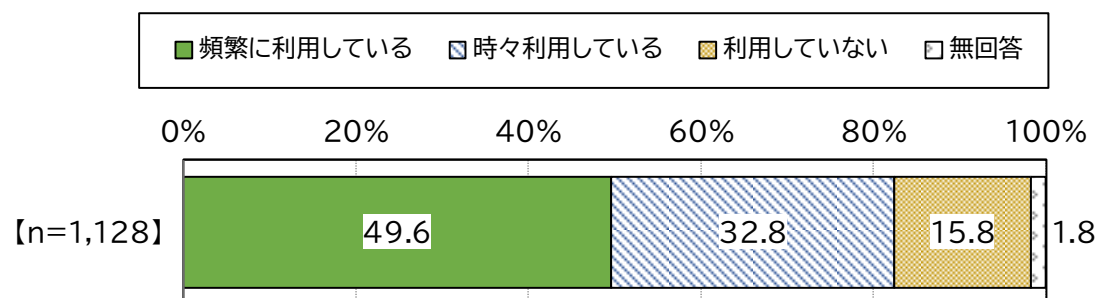
○メールや SNS の利用（一般高齢者 問 31）

「頻繁に利用している」が 46.5%と最も高く、次いで「時々利用している」が 37.9%、「利用していない」が 14.4%となっています。



○情報機器の生活での利用（一般高齢者 問 32）

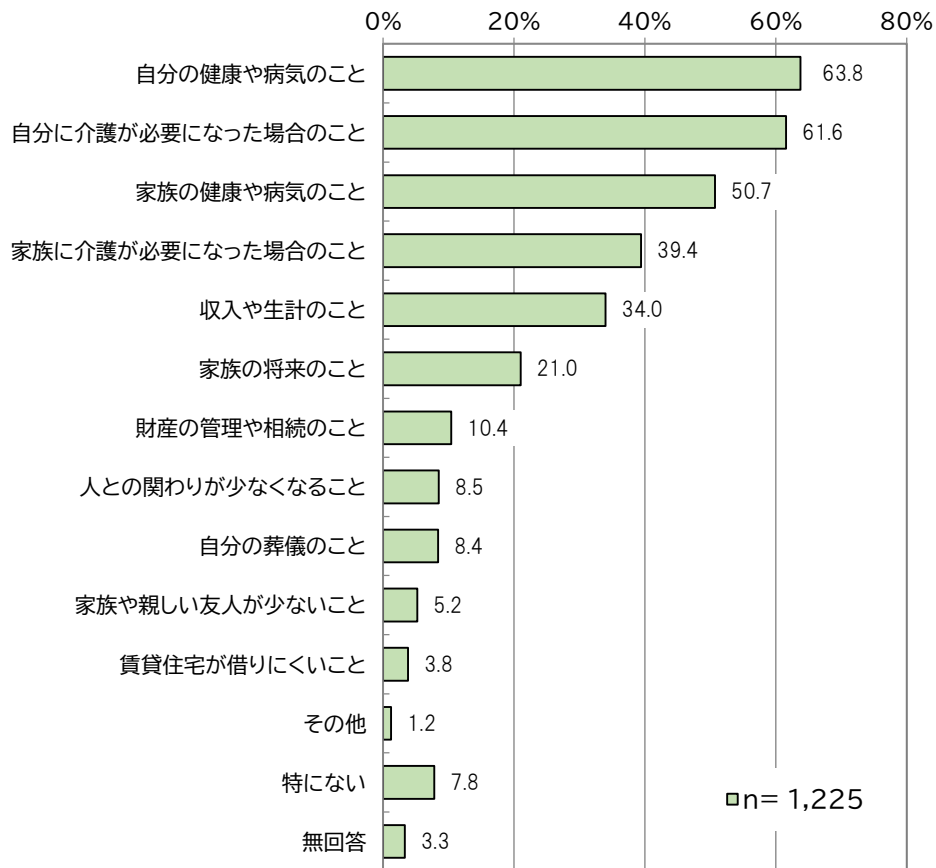
「頻繁に利用している」が 49.6%と最も高く、次いで「時々利用している」が 32.8%、「利用していない」が 15.8%となっています。



⑩今後の生活について

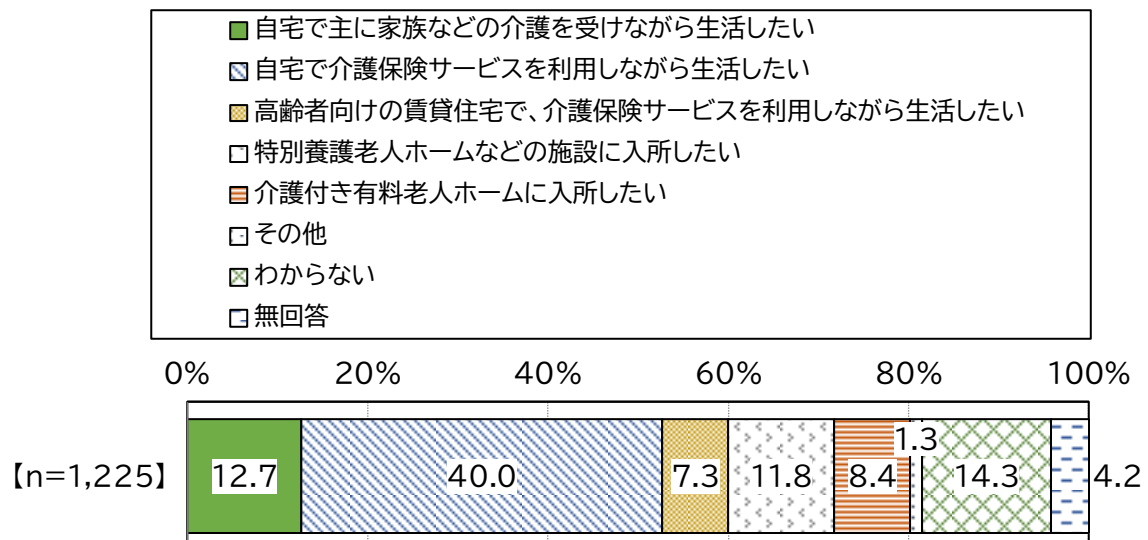
○今後の生活で不安に感じること(一般高齢者 問 42)

「自分の健康や病気のこと」が 63.8%と最も高く、次いで「自分に介護が必要になった場合のこと」が 61.6%、「家族の健康や病気のこと」が 50.7%となっています。



○介護が必要になった場合に希望する介護のあり方(一般高齢者 問 43)

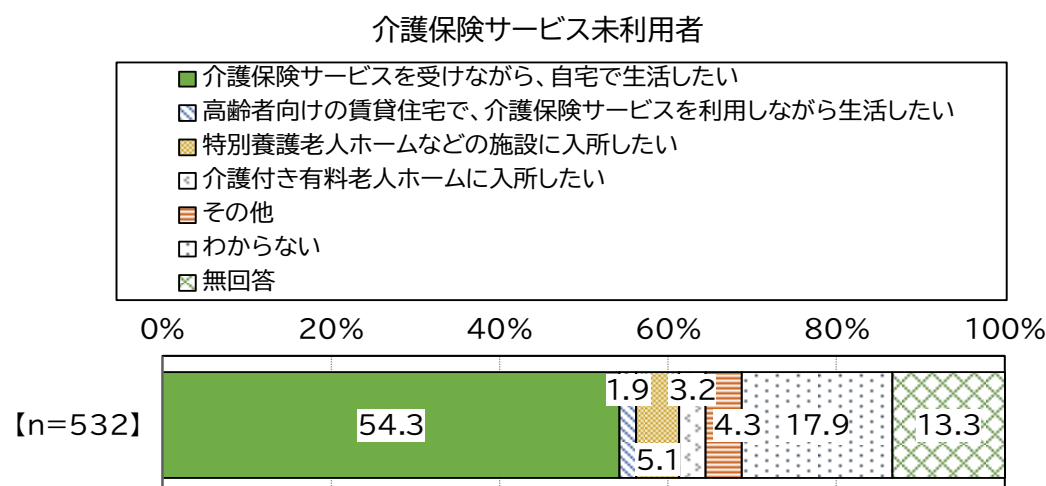
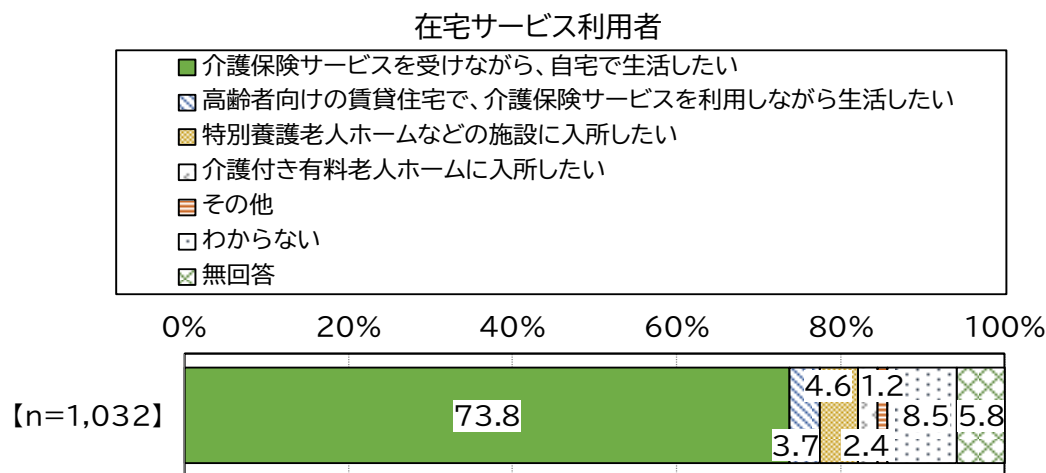
「自宅で介護保険サービスを利用しながら生活したい」が 40.0%と最も高く、次いで「自宅で主に家族などの介護を受けながら生活したい」が 12.7%、「特別養護老人ホームなどの施設に入所したい」が 11.8%となっています。



○要介護等認定者の今後の生活意向について

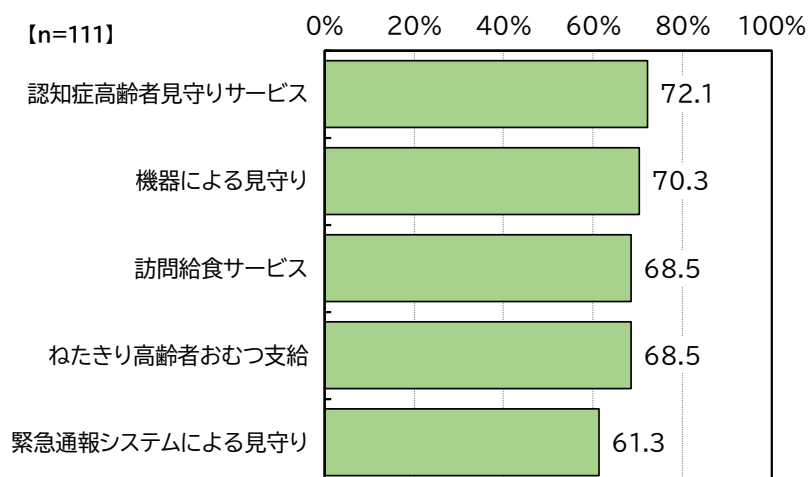
(在宅サービス利用者 問 25、介護保険サービス未利用者 問 16)

在宅サービス利用者、介護保険サービス未利用者ともに、「介護保険サービスを受けながら、自宅で生活したい」が最も高くなっています。



○在宅生活を続ける上で、必要と感じるサービス 上位5項目 (介護支援専門員 問 13)

「認知症高齢者見守りサービス」が 72.1%と最も高く、次いで「機器による見守り」が 70.3%、「訪問給食サービス」が 68.5%となっています。

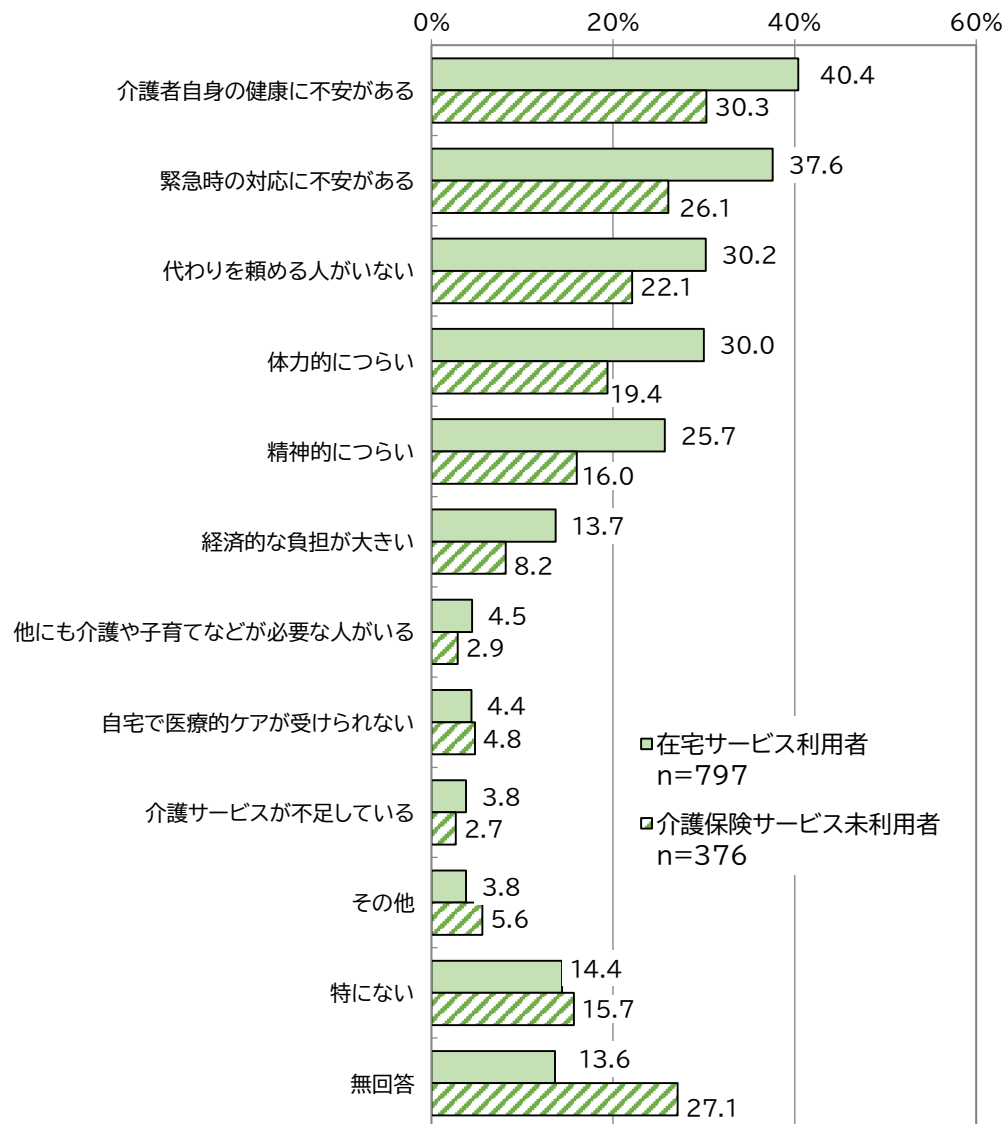


⑪介護者への支援

○主に介護している方が困っていること

(在宅サービス利用者 問 39、介護保険サービス未利用者 問 30)

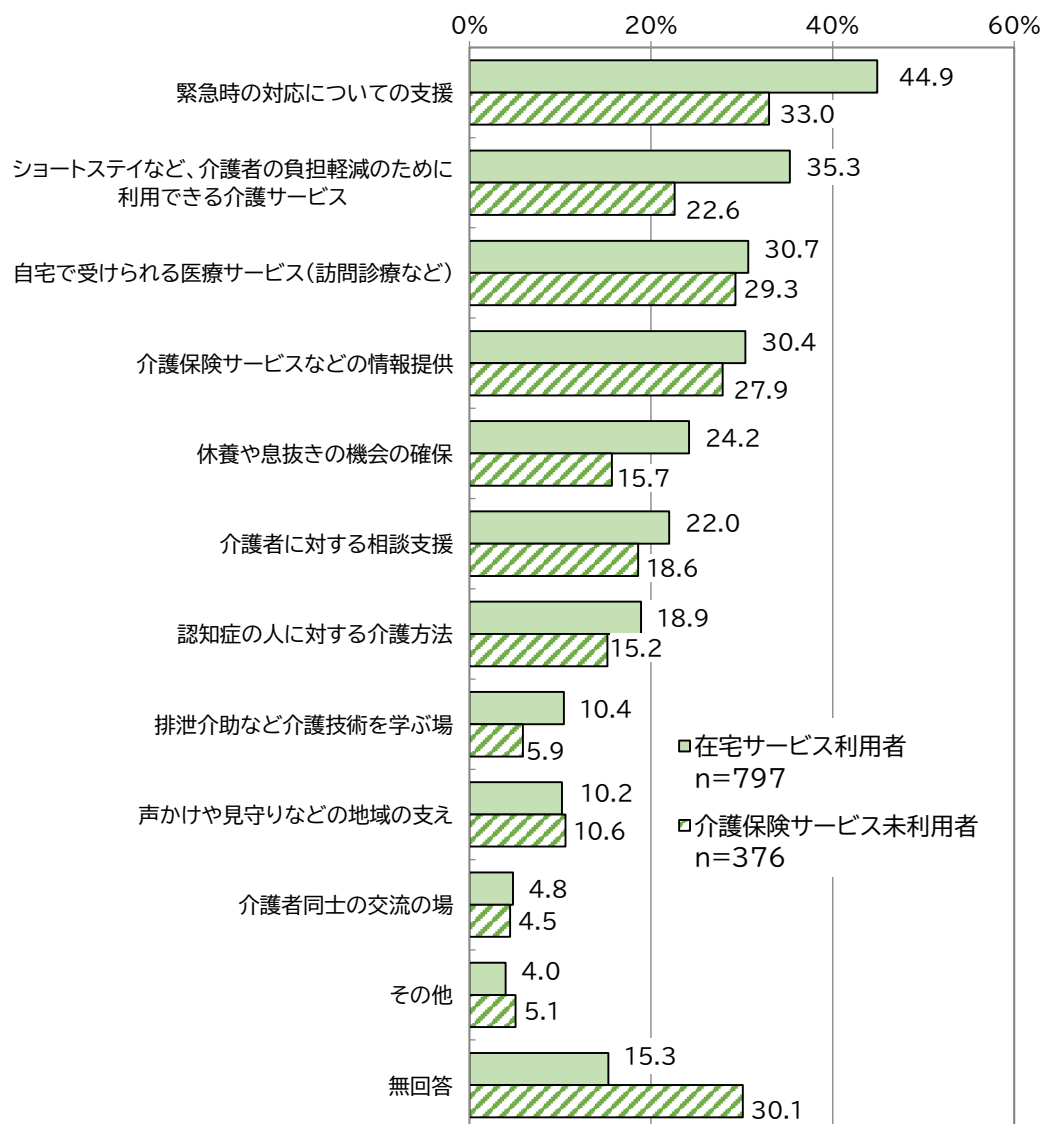
在宅サービス利用者、介護保険サービス未利用者ともに、「介護者自身の健康に不安がある」が最も高くなっています。そのほか、「緊急時の対応に不安がある」、「代わり頼める人がいない」「体力的につらい」、が上位に挙げられています。



○介護者への支援で必要なこと

(在宅サービス利用者 問 41、介護保険サービス未利用者 問 32)

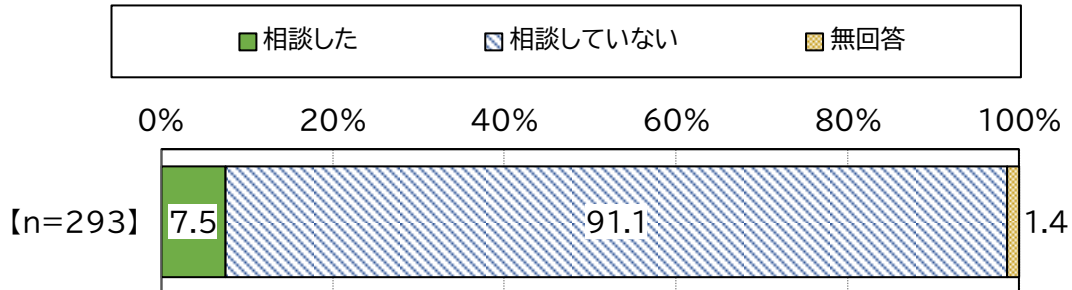
在宅サービス利用者、介護保険サービス未利用者ともに、「緊急時の対応についての支援」が最も高く、3割を上回る方が挙げています。そのほか、「ショートステイなど、介護者の負担軽減のために利用できる介護サービス」、「自宅で受けられる医療サービス(訪問診療など)」、「介護保険サービスなどの情報提供」、「休養や息抜きの機会の確保」、「介護者に対する相談支援」などとなっています。



⑫認知症施策について

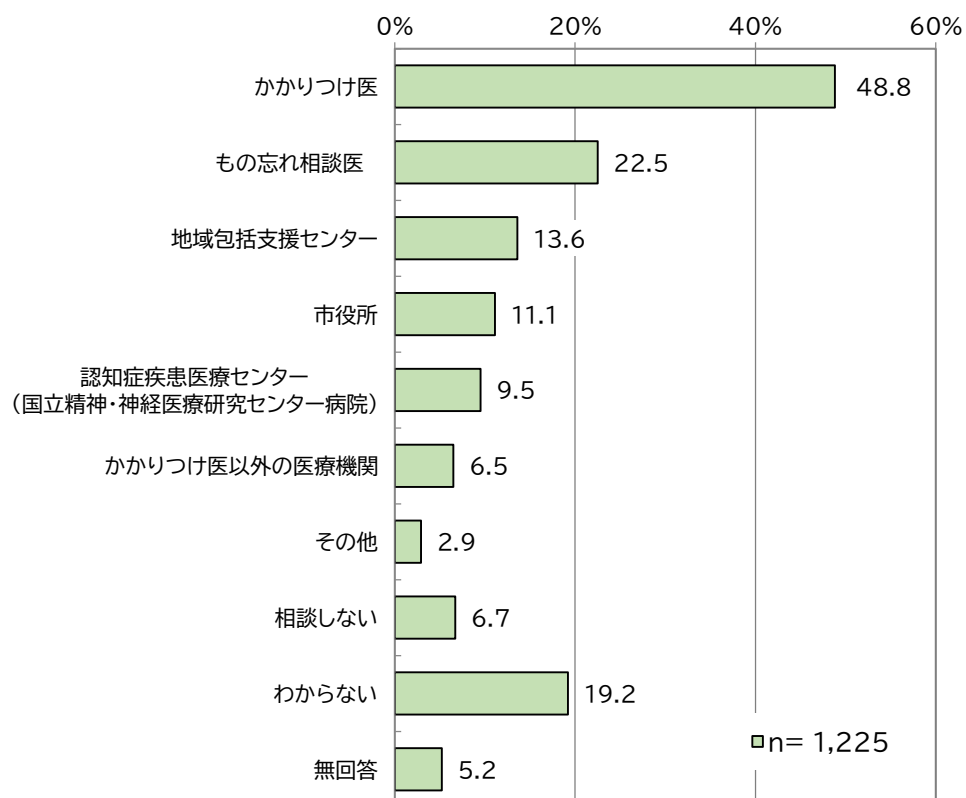
○もの忘れなどについての相談（一般高齢者 問37）

「相談していない」が91.1%と最も高く、次いで「相談した」が7.5%となっています。



○もの忘れなどについて相談する場合の相談窓口（一般高齢者 問38）

「かかりつけ医」が48.8%と最も高く、次いで「もの忘れ相談医」が22.5%となっています。また、「わからない」、「相談しない」を合わせた割合は25.9%で、約4分の1となっています。

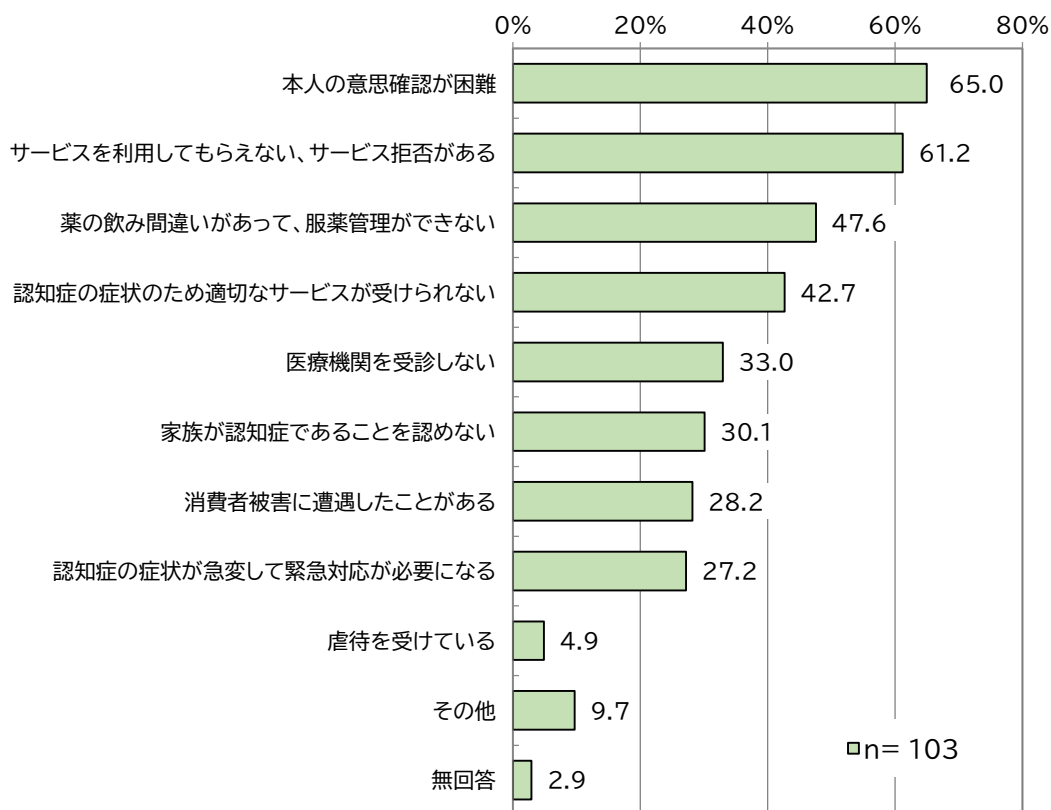


※もの忘れ相談医

ふだん診療していない人に対しても、認知症の相談を受け付け、認知症の診断ができる病院等を紹介する医療機関で、小平市独自の制度です。

○認知症の方の課題(介護支援専門員 問17)

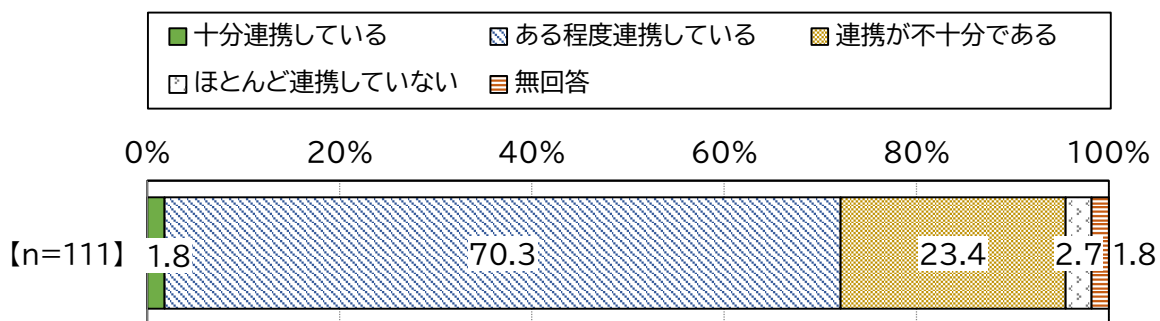
「本人の意思確認が困難」が65.0%と最も高く、次いで「サービスを利用してもらえない、サービス拒否がある」が61.2%、「薬の飲み間違いがあって、服薬管理ができない」が47.6%となっています。



⑬在宅医療と介護の連携について

○在宅療養者への支援における医療と介護の連携について(介護支援専門員 問25)

「十分連携している」と「ある程度連携している」をあわせた“連携している”が72.1%となっています。

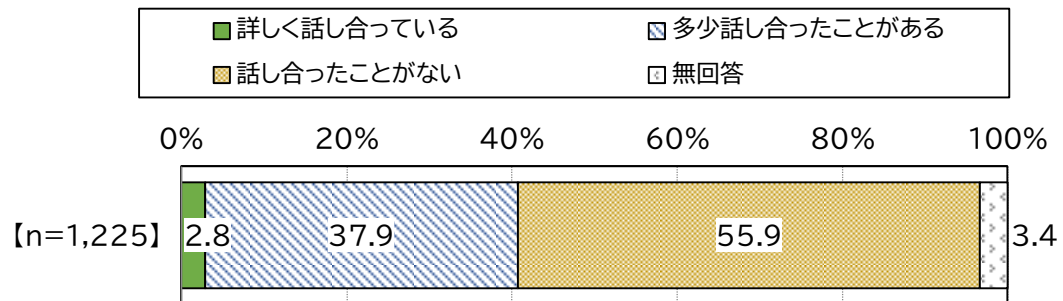


○人生の最期の過ごし方や受たい医療などについての家族や友人との話し合い

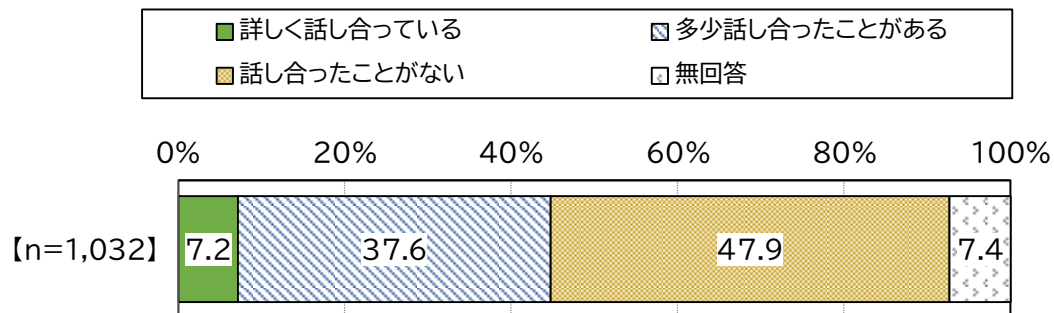
(一般高齢者 問 46、在宅サービス利用者 問 28、介護保険サービス未利用者 問 19)

一般高齢者では 55.9%、在宅サービス利用者では 47.9%、介護保険サービス未利用者では 53.6%が、「話し合ったことがない」となっています。

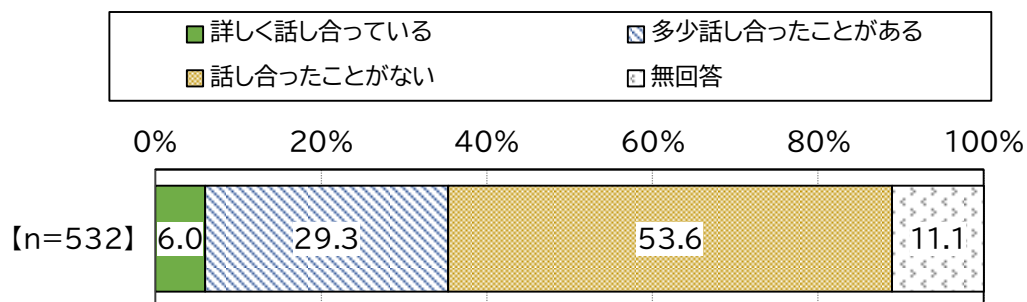
一般高齢者



在宅サービス利用者



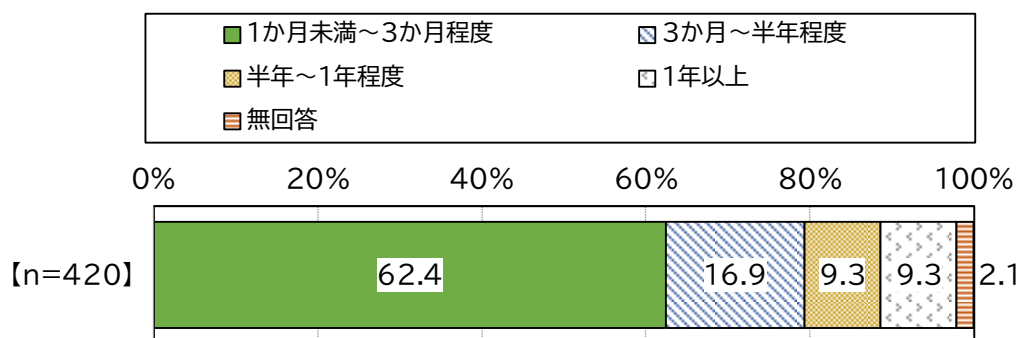
介護保険サービス未利用者



⑭介護施設への入所

○待機期間(施設・居住系サービス利用者 問 10)

「1か月未満～3か月程度」が 62.4%と最も高く、次いで「3か月～半年程度」が 16.9%、「半年～1年程度」と「1年以上」が9.3%となっています。



【施設の種別別】

施設の種別別でみると、特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)で「3か月以上」が 60%を超えています。

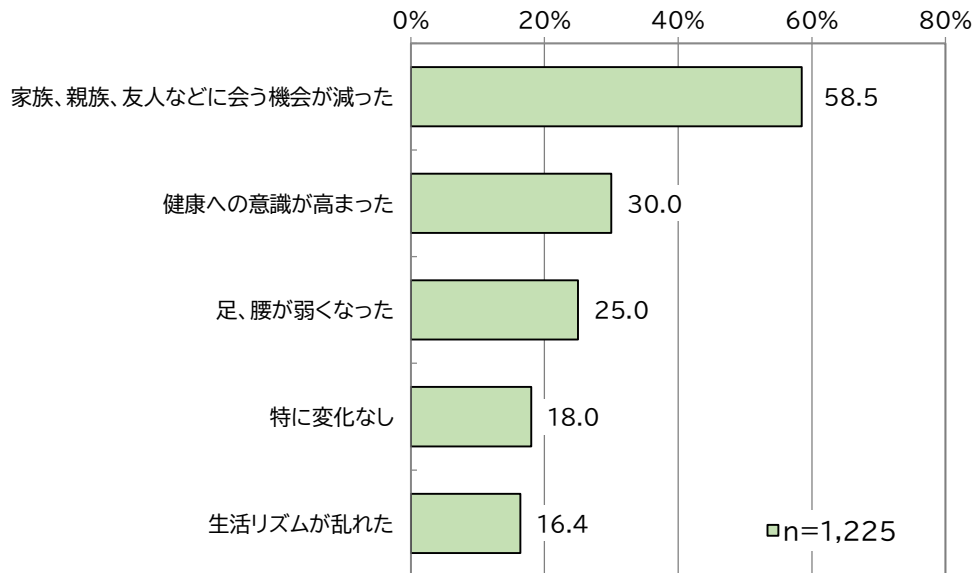
単位：%

区分	有効回答数(件)	1か月未満～3か月程度	3か月～半年程度	半年～1年程度	1年以上	無回答
特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)	164	31.7	28.7	21.3	16.5	1.8
介護老人保健施設	67	91.0	7.5	1.5	-	-
介護療養型医療施設	15	73.3	6.7	-	13.3	6.7
有料老人ホーム	116	85.3	6.0	-	5.2	3.4
認知症高齢者グループホーム	47	68.1	23.4	4.3	4.3	-
介護保険以外の病院	1	-	-	100.0	-	-
その他	4	100.0	-	-	-	-

⑮新型コロナウイルス感染拡大時期における生活等の変化

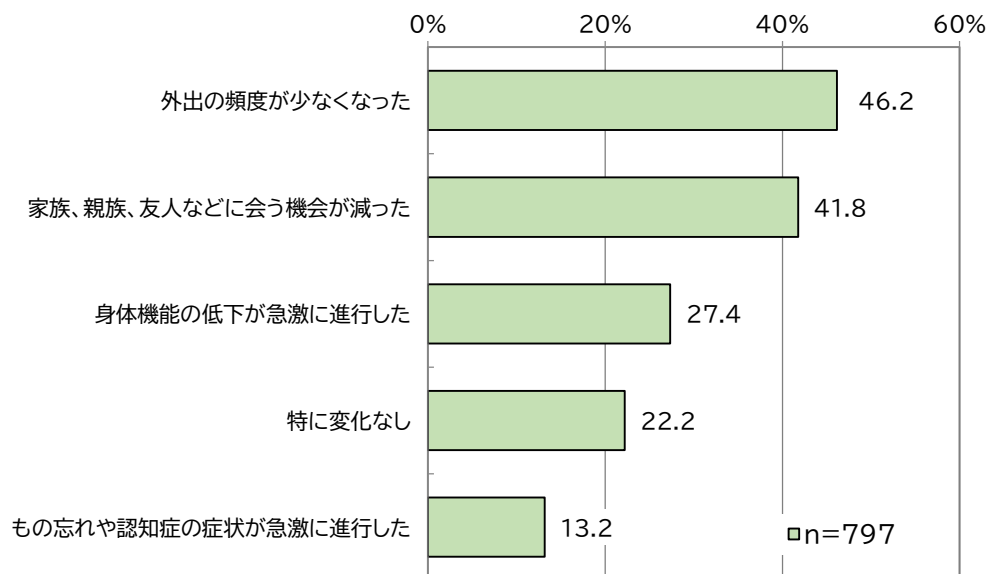
○生活や健康状態の変化 上位5項目(一般高齢者 問17)

「家族、親族、友人などに会う機会が減った」が58.5%と最も高く、次いで「健康への意識が高まった」が30.0%、「足、腰が弱くなった」が25.0%、「特に変化なし」が18.0%、「生活リズムが乱れた」が16.4%などとなっています。



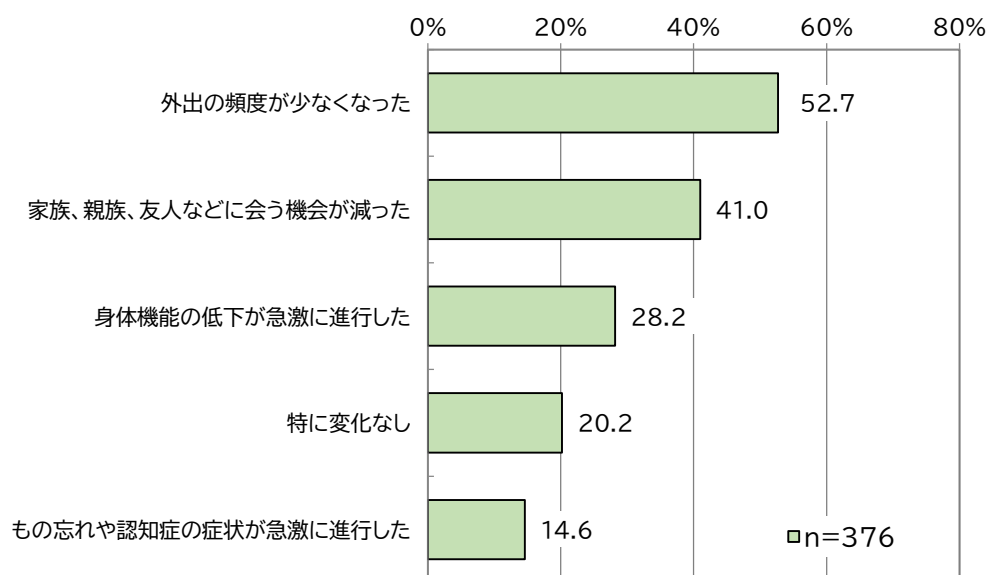
○介護者の視点で感じた、介護を受けている方に生じた変化や困ったこと 上位5項目(在宅サービス利用者 問44)

「外出の頻度が少なくなった」が46.2%と最も高く、次いで「家族、親族、友人などに会う機会が減った」が41.8%、「身体機能の低下が急激に進行した」が27.4%、「特に変化なし」が22.2%、「もの忘れや認知症の症状が急激に進行した」が13.2%などとなっています。



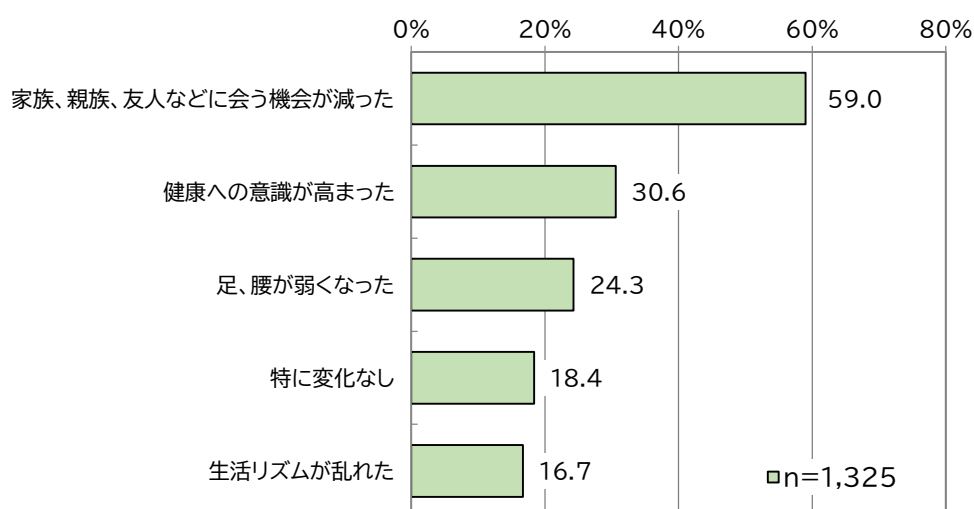
○介護者の視点で感じた、介護を受けている方に生じた変化や困ったこと 上位5項目
(介護保険サービス未利用者 問 35)

「外出の頻度が少なくなった」が 52.7%と最も高く、次いで「家族、親族、友人などに会う機会が減った」が 41.0%、「身体機能の低下が急激に進行した」が 28.2%、「特に変化なし」が 20.2%、「もの忘れや認知症の症状が急激に進行した」が 14.6%などとなっています。



○生活や健康状態の変化 上位5項目(介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 問 48)

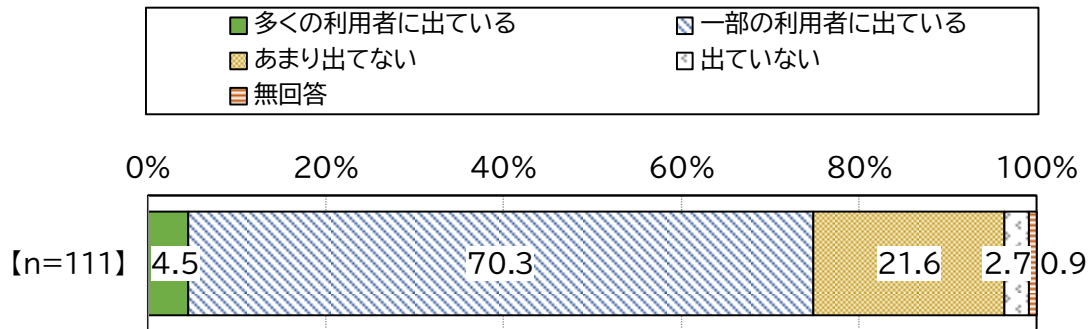
「家族、親族、友人などに会う機会が減った」が 59.0%と最も高く、次いで「健康への意識が高まった」が 30.6%、「足、腰が弱くなった」が 24.3%、「特に変化なし」が 18.4%、「生活リズムが乱れた」が 16.7%などとなっています。



○ケアマネジャーから見た利用者の状態の変化

(1) 認知症と診断された、または症状が悪化した（介護支援専門員 問 14）

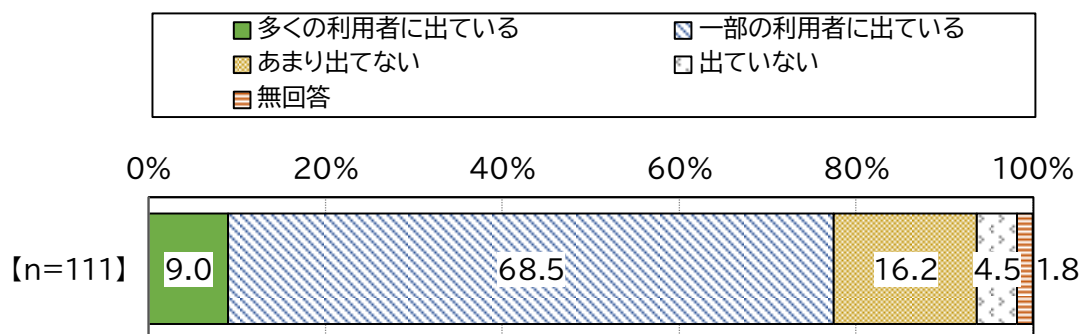
「一部の利用者に出ている」が70.3%と最も高く、次いで「あまり出ていない」が21.6%、「多くの利用者に出ている」が4.5%となっています。



○ケアマネジャーから見た利用者の状態の変化

(2) 身体機能の低下が進み、重度化した（介護支援専門員 問 14）

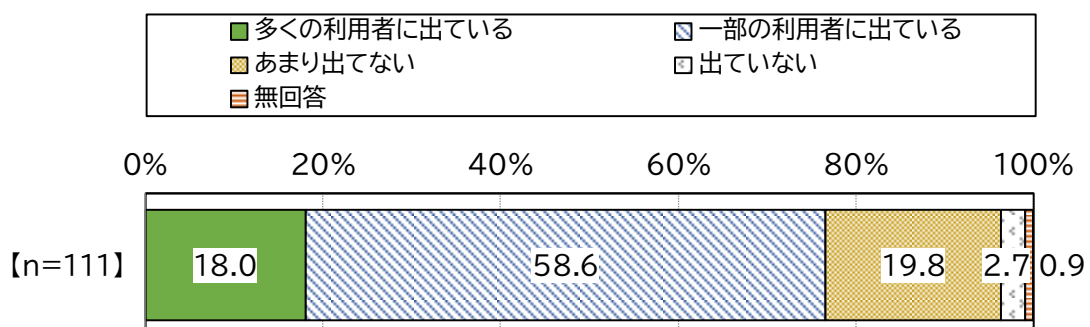
「一部の利用者に出ている」が68.5%と最も高く、次いで「あまり出ていない」が16.2%、「多くの利用者に出ている」が9.0%となっています。



○ケアマネジャーから見た利用者の状態の変化

(3) 生活への不安を訴えるようになった（介護支援専門員 問 14）

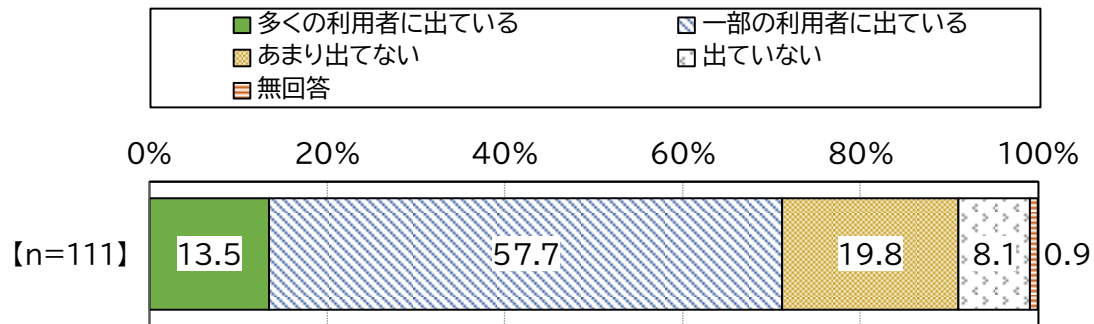
「一部の利用者に出ている」が58.6%と最も高く、次いで「あまり出ていない」が19.8%、「多くの利用者に出ている」が18.0%となっています。



○ケアマネジャーから見た利用者の状態の変化

(4) 精神面での不安定さが目立つようになった(介護支援専門員 問 14)

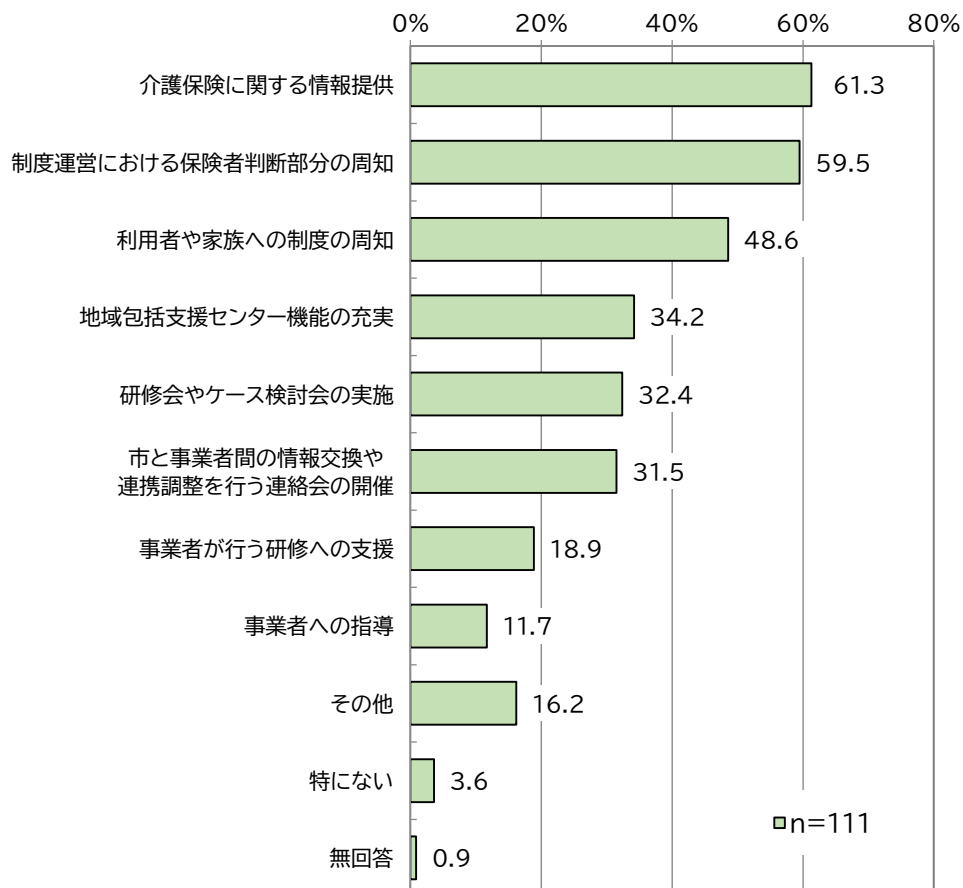
「一部の利用者に出ている」が 57.7%と最も高く、次いで「あまり出ていない」が 19.8%、「多くの利用者に出ている」が 13.5%となっています。



⑩小平市への意向

○保険者としての小平市に対して望むこと(介護支援専門員 問 38)

「介護保険に関する情報提供」が 61.3%と最も高く、次いで「制度運営における保険者判断部分の周知」が 59.5%、「利用者や家族への制度の周知」が 48.6%となっています。



4 前期計画における評価と課題

小平市地域包括ケア推進計画(令和3(2021)年度から令和5(2023)年度)では、3つの基本目標と9つの施策を掲げ、地域包括ケアシステムの構築を総合的に進めてきました。

令和6(2024)年度からの計画策定に当たり、前期計画における施策及び数値目標について、評価を行うとともに、課題を整理しました。

(1)地域づくり・日常生活支援

【主な取組状況】

- 高齢者が地域の中で、つながりや交流を持てるよう、地域包括支援センターの生活支援コーディネーターが中心となり、地域の関係者や住民とともに、地域の居場所・通いの場などの社会資源を紹介する「地域のつながりマップ」を作成、配付しています。
- 高齢者の個別の課題解決のための「地域ケア個別会議」や、多職種が連携しながら地域に共通した課題の把握やネットワーク構築のための「地域ケア推進会議」を開催しています。
- 地域包括支援センターにおける相談件数の増加や複雑化・複合化するニーズに対応するため、人員体制の強化を図っています。
- 地域包括支援センターでは、介護に関する様々な相談に対応するほか、介護者同士が不安や悩みを共有したり情報交換を行う場や、介護知識・技術などを学ぶ家族介護教室の開催など、介護者支援に取り組んでいます。
- 介護予防リーダーと認知症支援リーダーの養成講座を実施し、地域で活動する人材の育成に取り組んでいます。各リーダーの登録者数は施策の数値目標の達成に向けて順調に推移しています。(進捗1)
- 介護予防リーダーと認知症支援リーダーが地域の居場所・通いの場の立ち上げや運営に関わることで活動の活性化を図っています。各リーダーが関わっている地域の居場所・通いの場数は順調に推移しており、施策の目標数値を達成しています。(進捗2)

【施策の数値目標と進捗】

進捗1	基準時点 令和元年度末 (2019)	実績 令和4年度末 (2022)	目標 令和5年度末 (2023)
介護予防リーダーの累計登録者数	62 人	100 人	110 人
認知症支援リーダーの累計登録者数	165 人	193 人	220 人

進捗2	基準時点 令和元年度末 (2019)	実績 令和4年度末 (2022)	目標 令和5年度末 (2023)
介護予防リーダー、認知症支援リーダー が関わっている地域の居場所・通いの 場※の数	10 か所	36 か所	30 か所

※生活支援コーディネーターが把握している、高齢者が気軽に通うことができる居場所等

【課題】

- 地域包括支援センターが地域包括ケアシステムの中核として、担うべき役割が発揮できるよう、業務負担の軽減や質の確保に向けた体制整備が求められています。
- 高齢者やその家族の抱える複雑化・複合化した課題に対しては、介護保険や高齢者福祉のみでは解決が難しく、障がい、子ども、生活困窮分野といった分野を超えた支援体制が求められています。
- 介護予防リーダー、認知症支援リーダーの登録者数は順調に推移していますが、新規登録者数は減少傾向にあります。アンケート結果(P33 グループ活動の運営・企画としての参加意向)では3割程度の方が「参加してもよい」と回答しており、地域活動の担い手となる高齢者が気軽に参加できるように活動機会の充実を図ることが必要です。
- アンケート結果(P43 生活や健康状態の変化)では、新型コロナウイルス感染拡大時期において、約6割の方が「家族、親族、友人などに会う機会が減った」と回答しています。地域の居場所・通い場などへの参加の促進や交流機会の確保など、地域のつながりの希薄化の回復に向けた取組が求められています。
- アンケート結果(P38 介護者への支援で必要なこと)では、介護者への必要な支援として、緊急時の支援、ショートステイなど介護者負担軽減のために利用できる介護サービス、自宅で受けられる医療サービス、介護保険サービスなどの情報提供が、多く求められています。
- 高齢者や家族介護者を適切に介護サービスの利用につなげられる環境づくりや、仕事をしながらの介護、老老介護、ダブルケアやヤングケアラーなど、様々な形で介護を担わなければならない家族への支援が求められています。

(2)介護予防・健康づくりの推進

【主な取組状況】

- 介護予防ボランティアポイント事業をこだいら健康ポイント事業に統合し、高齢者のボランティア活動の取組に加え、介護予防の取組に対してもポイントを付与することで、高齢者の交流活動を通じた介護予防の推進を図っています。
- 高齢者が健康づくりへの意識を高め、日常的に介護予防に取り組めるよう、近所の公園などを回りながら体操を行うウォークラリーのコースを設定するなど、身近な地域の特色を活かした取り組みを実施しています。

○令和5年度から、医療・保険・介護データを活用し、地域の健康課題の分析を行うとともに、後期高齢者に対する個別的な支援や、通いの場等への積極的な関与を行う高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業を中央西圏域で実施しています。

○高齢者が自立した生活を継続できるように、介護予防の正しい知識の普及・啓発や実践に向けた支援として介護予防講座を実施しています。介護予防講座の参加者数は順調に推移しており、施策の数値目標を達成しています。(進捗3)

○令和3(2021)年度から介護予防・フレイル予防推進員を新たに配置し、地域における住民主体で介護予防・フレイル予防活動に取り組むグループの立ち上げや活動継続の支援を行っています。グループ数は順調に推移しており、施策の数値目標を達成しています。(進捗4)

【施策の数値目標と進捗】

進捗3	基準時点 令和元年度 (2019)	実績 令和4年度 (2022)	目標 令和5年度 (2023)
介護予防講座の年間参加者数	659 人	1,232 人	700 人

進捗4	基準時点 令和3年4月 (2021)	実績 令和4年度末 (2022)	目標 令和5年度末 (2023)
週1回以上フレイル予防に取り組むグループ数	事業開始	40 グループ	30 グループ

【課題】

○高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業について、中央西圏域での実施状況を踏まえ、全圏域での実施に向け、医療関係団体との連携の促進や地域の居場所・通いの場などの社会資源への働きかけなどが求められています。

(3)見守り体制の充実

【主な取組状況】

○見守りに関する協定締結事業者を対象に見守りネットワーク会議を開催し、各事業者の取り組み内容等の情報共有を図り、活動の支援を行っています。

○生活実態把握調査の結果から、支援が必要な方に対して地域包括支援センター職員による訪問を行い、必要なサービス利用に繋げています。

○自治会等と協力しながら、通信機能付き SIM 一体型 LED 電球を利用した、高齢者見守り事業を支援しています。

○高齢者が地域包括支援センターと連携しながら、地域のさりげない見守り活動を行う介護予防見守りボランティアの活動を支援するため、ボランティア登録の研修やボランティア同士の交流会を実施しています。ボランティア登録者数は増えていますが、施策の数値目標の達成は難しい状況となっています。(進捗5)

【施策の数値目標と進捗】

進捗5	基準時点 令和元年度末 (2019)	実績 令和4年度末 (2022)	目標 令和5年度末 (2023)
介護予防見守りボランティアの累計登録者数	400 人	464 人	600 人

【課題】

- アンケート結果(P32 地域で困っている世帯に対してあなた自身ができる手助け、P32 地域住民が助け合える地域を作るための有効な手段)では「見守り」に関する回答が5割程度あることから、地域の高齢者による見守りは一定程度、必要とされています。また、見守りに取り組む意欲のある方も一定程度いることから、地域における見守り活動の推進のため、介護予防見守りボランティアの育成を支援する必要があります。
- 地域住民からの見守りが困難な方に対しては、日常生活に溶け込んだ見守りが有効であることから、多様な主体による見守りが必要です。
- アンケート結果(P30 希望する見守りや声かけの方法)では「地域包括支援センター職員による見守り、声かけ」が3割を超えていることから、生活実態把握調査等の機会を捉えて、訪問等による積極的な見守りが求められています。

(4)認知症施策の推進

【主な取組状況】

- 認知症地域支援推進員を市内全圏域の地域包括支援センターに配置し、認知症に関する相談や支援体制の充実を図っています。
- 認知症についてより理解を深めてもらうための認知症サポーターフォローアップ講座や認知症支援リーダー養成講座を通して、認知症の支援に関する活動の担い手を養成し、認知症カフェ等の地域における支援体制の充実を図っています。認知症カフェの実施箇所数は順調に推移しており、施策の数値目標を達成しています。(進捗6)
- 認知症サポーターの養成やこだいら認知症週間等の機会を捉え、認知症に関する普及・啓発を行っています。認知症サポーター養成講座の累計受講者数は順調に推移しており、施策の数値目標を達成しています。(進捗6)
- 認知症の早期発見・早期対応のため、もの忘れチェック会やもの忘れ相談会を実施しています。

【前計画における施策の数値目標】

進捗6	基準時点 令和元年度末 (2019)	実績 令和4年度末 (2022)	目標 令和5年度末 (2023)
認知症サポーター養成講座の累計受講者数	8,886 人	11,371 人	10,000 人
認知症カフェの実施個所数	9か所	15 か所	15 か所

【課題】

- 地域で暮らす認知症の人や家族の困りごとと認知症サポーターを結びつけるとともに、認知症の人にもチームの一員として活動する「チームオレンジ」の立ち上げが求められています。
- 多くの認知症の認知機能の低下は緩やかに進んでいくことから、早期発見と早期治療が必要になることの周知や適切な支援が必要です。
- 若年性認知症は高齢者の認知症とは異なる特徴や課題があるため、若年性認知症に対する理解の促進や対象者に合わせた支援の構築が必要です。

(5)在宅医療と介護の連携の推進

【主な取組状況】

- 在宅医療介護連携調整窓口では、ケアマネジャーや医療機関からの相談を受け付け、近隣の医療機関や介護事業所等の紹介や情報提供を行っています。
- ICT を利用した情報共有ツールであるメディカルケアステーションの利用ルールの改定と利用方法の周知を行い、多職種の円滑な連携を推進しました。
- 在宅療養や人生会議、看取りに関するパンフレットの全戸配布や講演会を行い、市民への普及・啓発を行いました。
- 在宅で介護をする家族等が新型コロナウイルス感染症に感染した場合においても、高齢者の生活が維持できるように、医療と介護を連携して、訪問介護や訪問看護による支援や施設入所による一時的な支援を行っています。

【課題】

- アンケート結果(P40 在宅療養者への支援における医療と介護の連携について)では「連携している」が7割程度であることから、引き続き医療と介護双方の知識や理解を深めていく必要があります。
- アンケート結果(P35 介護が必要になった場合に希望する介護のあり方、P36 要介護等認定者の今後の生活意向について)では「自宅で生活したい」が高い割合であることから、高齢者が住み慣れた自宅や地域で生活するために在宅医療と介護が連携して

支援をする必要があります。

- 今後、医療と介護双方を必要とする在宅療養者の増加に伴い、在宅での看取りも増加することが想定されることから、医療と介護が連携し、在宅や施設等で看取りに対応するための体制を構築する必要があります。

(6)社会参加の促進

【主な取組状況】

- 高齢クラブが活動するための場所や機会を確保し、地域の繋がりの中で活動が続けられるように支援をしています。
- 福社会館、高齢者館(2館)を適切に運営し、高齢者同士の交流の場や活動場所としての機能の維持に努めています。
- 就労を通じて社会参加に意欲を持つ高齢者が経験や能力を活かすことのできる機会を確保するシルバー人材センターに対して、助成を行っています。シルバー人材センターの会員数は順調に推移しており、施策の数値目標を達成しています。(進捗7)

【前計画における施策の数値目標】

進捗7	基準時点 令和元年度末 (2019)	実績 令和4年度末 (2022)	目標 令和5年度末 (2023)
シルバー人材センター会員数	1,138 人	1,250 人	1,150 人

※目標値は小平市シルバー人材センター「第4次長期5か年計画」(令和3年3月)による。

【課題】

- 高齢クラブの会員数が減少傾向にあることから、活動内容を周知・広報する取り組みが求められています。

(7)権利擁護の充実

【主な取組状況】

- 令和4年度に「小平市成年後見制度利用促進計画」を包含する小平市第四期地域保健福祉計画【中間見直し版】を策定し、判断能力が十分でないために、契約行為や金銭管理等に支障がある認知症高齢者等を支援する成年後見制度、地域福祉権利擁護事業(日常生活自立支援事業)を推進しています。
- 高齢者に対する虐待を防止するため、関係機関との連携を強化するとともに、地域住民による見守りを推進することで、虐待防止・早期発見を図っています。

【課題】

- 成年後見制度等の利用の推進を図っていくために、地域包括支援センターと権利擁護センターこだいらの周知、相互連携の強化、地域ネットワークの活用、成年後見人等の支援、社会貢献型後見人(市民後見人)の養成及び支援が必要です。
- 介護保険施設等で高齢者虐待を防ぐため、事業者や介護職員への適切な指導が必要です。
- 養護者(高齢者の世話をしている家族、親族、同居人等)による高齢者虐待の早期発見・防止のために地域包括支援センター等の関係機関との連携強化が必要です。

(8)介護サービスの充実と給付の適正化

【主な取組状況】

- 生活支援サポーター養成講座では介護保険制度やサービスの基礎知識の習得や、訪問介護事業所の合同説明会を行い、生活支援サポーターの養成を推進しています。生活支援サポーターの登録者数は施策の数値目標の達成に向けて順調に推移しています。(進捗8)
- 介護認定審査会にタブレット端末によるペーパーレス会議システムの導入や介護保険に関する手続きの一部をオンライン化し、業務の効率化と利便性の向上を図りました。
- 市では介護職員初任者研修受講費用助成金の制度を開始し、介護人材確保の支援を行っています。
- 令和5年度に市内に1施設ある介護療養型医療施設について、介護医療院へ移行する見込みです。また、認知症高齢者グループホームを1施設開設する見込みです。(進捗9)
- 特別養護老人ホームの整備を進めており、令和7年度末には1施設を開設する見込みです。(進捗10)

【前計画における施策の数値目標】

■生活サポーターの累計登録者数

進捗8	基準時点 令和元年度末 (2019)	実績 令和4年度末 (2022)	目標 令和5年度末 (2023)
生活サポーターの累計登録者数	172 人	254 人	300 人

■地域密着型サービスの整備目標

進捗9	基準時点 令和2年度末 (2020)	実績 令和5年度末 (2022)見込み	目標 令和5年度末 (2023)
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0か所	1か所	2か所
認知症高齢者グループホーム	10 か所 定員 171 人	11 か所 定員 189 人	11 か所 定員 189 人
看護小規模多機能型居宅介護	1か所 登録定員 25 人	1か所 登録定員 25 人	2か所 登録定員 50 人

■介護施設の整備目標

進捗10	基準時点 令和2年度末 (2020)	実績 令和5年度末 (2022)見込み	目標 令和7年度末 (2025)
特別養護老人ホーム(地域密着型含む)	845 人	845 人	925 人

【課題】

- 高齢者の生活支援のニーズが多様化していることから、生活支援サポーターの知識や技術の習得を支援するとともに、関係機関との連携を図っていく必要があります。
- 介護保険サービスの需要の増加とともに、今後生産年齢人口の減少が見込まれる中、地域の高齢者の生活を支える介護人材の確保が課題となっています。
- 定期巡回・随時対応型訪問介護看護と看護小規模多機能型居宅介護の整備にあたっては、現在の利用状況や利用ニーズを見極めながら、整備計画を進める必要があります。
- 電子申請など ICT の活用による、市民やケアマネジャーの手続きの利便性の向上を検討するとともに、手続き方法の周知を行い、業務の効率化を推進していく必要があります。

(9)安心できる住まいの確保

【主な取組状況】

- 高齢者住宅(シルバーピア)に配置している生活協力員(ワーカー)に対して、研修の実施や生活協力員同士の意見交換・情報共有の場を提供しています。
- ひとり暮らしや保証人いない高齢者が住まい探しをする際には、市と協定を結んでいる一般社団法人賃貸保証機構を通じて高齢者自身のニーズに合った住まいが確保できるように支援しています。

【課題】

- 高齢者の課題に対応した住まいの提案や入居の支援を行っている各種団体に関する情報提供が求められています。

第 3 章


計画の基本的な考え方



第3章 計画の基本的な考え方

1 計画の基本理念

住み慣れた地域で
いきいきと自分らしく暮らせるまち こだいら



- ・小平市第四次長期総合計画基本構想では、将来像の実現に向けた基本目標のひとつに、「くらしづくりー多様性を認めあい、つながり、共生するまちー」を掲げています。
- ・小平市第四期地域保健福祉計画では、「だれもが担い手、お互いに支えあいながら、安心して暮らせる地域共生社会をめざして」を基本理念に掲げています。
- ・小平市第四次長期総合計画基本構想の基本目標と小平市第四期地域保健福祉計画に掲げる基本理念を踏まえ、第9期計画では、第8期計画を継承しつつ、高齢者が経験や能力を生かしながら、自らが望む暮らしの実現を示すため、『自分らしく』という言葉を加えた「住み慣れた地域で、いきいきと自分らしく暮らせるまち」を基本理念とし、3つの基本目標に沿って高齢者保健福祉及び介護保険施策を推進していきます。

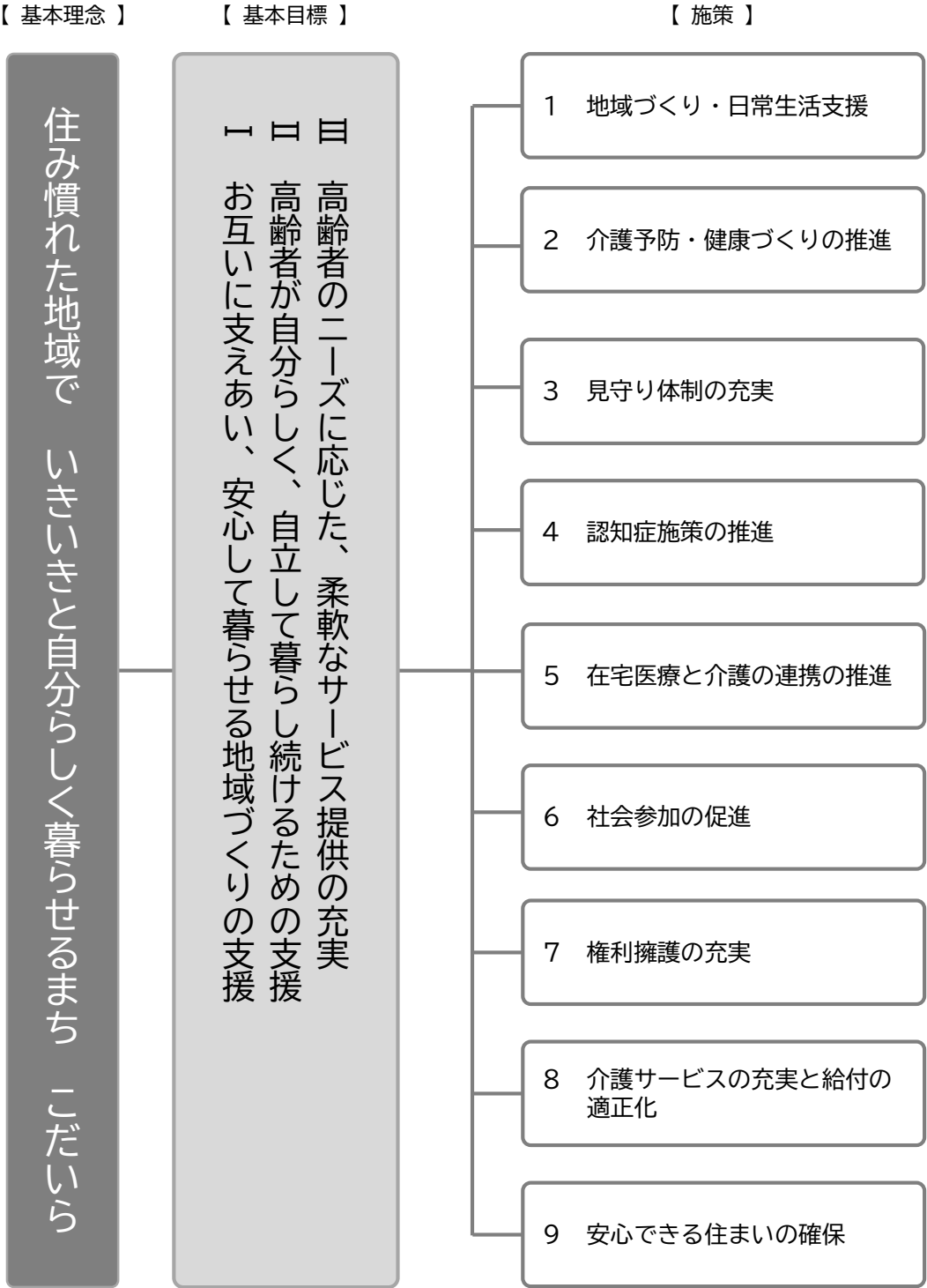
2 基本目標

本計画の基本理念を具体化していくため、以下の3つの基本目標の下に高齢者保健福祉及び介護保険にかかる施策・事業の総合的な推進を図ります。

- I お互いに支えあい、安心して暮らせる地域づくりの支援
- II 高齢者が自分らしく、自立して暮らし続けるための支援
- III 高齢者のニーズに応じた、柔軟なサービス提供の充実

3 施策の体系

小平市は、基本理念、基本目標を軸として、9本の施策に沿って、地域包括ケアシステムの構築に向けた取組を総合的に推進します。



4 日常生活圏域の設定

小平市では、地域の成り立ちや人口の分布状況などから、市内を5圏域に区分し、圏域ごとの中核拠点として地域包括支援センター（高齢者あんしん相談窓口）を設置しています。中央圏域を担当する中央センターは、基幹型地域包括支援センターとして、各地域包括支援センターの統括や連絡調整、後方支援、人材育成を行っています。また、各圏域に生活支援コーディネーターを配置し、社会資源や地域課題の把握を行うほか、さまざまな主体と連携を図りながら、地域におけるネットワークの構築に取り組んでいます。

今期計画においても、この5圏域の設定を継承し、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、各種取組を推進するとともに、必要に応じて圏域の見直しについて検討します。

